

平成 27 年 度

(平成 26 年度事業対象)

桶川市教育委員会

点検評価報告書



平成 27 年 8 月

桶川市教育委員会

あいさつ

新しい教育委員会制度が4月1日よりスタートし、5月には「総合教育会議」を行いました。

桶川市教育委員会は、教育行政基本方針の教育理念と基本目標（いわゆる「桶川市教育大綱」）を新たに策定し、この4月から「桶川の教育」の第一歩を踏み出しました。基本理念は、「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」とし、この基本理念を着実に実現するために6つの大きな基本目標の柱を立てました。

- I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実
- II 豊かな心の育成と人権意識の高揚
- III 健やかな体の育成
- IV 家庭・地域の教育力の向上
- V 生涯にわたる学びとスポーツの支援
- VI 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用

この点検及び評価は7年目を迎え、これまでの事業の成果や反省をしっかりと行い、新たな基本理念、基本目標の実現につなげていきたいと考えています。

今後とも教育を取り巻く諸情勢の変化を的確にとらえながら、教育行政の推進を効果的、かつ積極的に進めて参りたいと考えておりますので、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

平成27年8月

桶川市教育委員会

教育委員名簿

(平成27年8月26日現在)

委員長	岡野 千枝子
委員長職務代理者	湯浅 哲朗
委員	小野原 典子
委員	水村 実男
委員	佐藤 悦代
委員(教育長)	前島 富雄

目 次

I 趣旨、点検及び評価の基本方針

II 教育委員会の事務に関する点検評価結果（点検評価シート）

課（館）	第五次総合振興計画の施策	事業名	P
教育総務課	就学前教育の支援・充実	幼稚園就園奨励事業	6
		入学準備金貸付事業	7
	学校教育の充実	小・中学校図書購入事業	8
		小学校整備事業	9
		中学校整備事業	10
学校支援課	学校教育の充実	小・中学校給食業務	11
		補助員配置事業	13
		学校図書館教育補助員配置事業	15
		英語指導助手配置事業	16
		教育相談事業	17
		中学生社会体験チャレンジ事業	18
		進路意識啓発事業（ふれあい講演会）	19
		ことばの教室事業	20
		桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業	21
		学校応援団推進事業	22
		教職員の資質・能力の向上推進事業	23
		学校教育における人権教育の推進事業	25
		主体的に行動できる能力を育てる環境教育事業	26
		情報活用能力の育成を図る情報教育の推進事業	27
福祉社会の実現を目指すボランティア・福祉教育事業	28		
学校支援課 学務課	学校教育の充実	就学援助事業	29
学務課	学校教育の充実	学校評議員会の設置事業	30
		学校関係者評価委員会の設置事業	31
		教職員の資質・能力の向上推進事業	32
		教職員の管理業務	33
生涯学習 文化財課	就学前教育の支援・充実	P T Aリーダー研修会	34
		P T A家庭教育講演会	35
		「親の学習」講座	36

課（館）	第五次総合振興計画の施策	事業名	P
生涯学習 文化財課	青少年の健全な育成	成人式典	38
		放課後子供教室事業	39
		青少年健全育成事業	40
	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習情報の提供	42
		市民大学の開催	43
		職員出前講座	45
		パソコン講習とサポート事業	46
		文芸桶川発行	47
		学習ボランティア推進事業	48
		生涯学習推進体制の整備	49
	人権教育・啓発と平和の推進	人権教育の推進	51
	文化・芸術の振興・保存・継承	文化財説明板設置事業	53
		指定文化財保存管理交付金及び指定文化財保存事業費補助金交付事業	54
		民俗芸能保存事業交付金交付事業	56
		後谷遺跡出土品保存処理事業	58
指定文化財調査事業		60	
スポーツ 振興課	生涯学習・生涯スポーツの充実	スポーツ指導者育成事業	61
		スポーツ団体への支援事業	62
		スポーツ施設維持管理事業	63
公民館	就学前教育の支援・充実	少子・高齢化対応事業	64
	生涯学習・生涯スポーツの充実	公民館業務運営事業	65
		講座開催事業	66
図書館	生涯学習・生涯スポーツの充実	管理運営事業	67
		図書館業務推進事業	68
歴史民俗 資料館	文化・芸術の振興・保存・継承、 生涯学習・生涯スポーツの充実	資料調査・収蔵事業	69
		教育普及事業	70
	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習センター管理事業	72

1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条により、教育委員会は、毎年、教育長に委任した事務を含め、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされています。この報告書は、同法に基づき、桶川市教育委員会が行った点検及び評価の結果をまとめたものです。

2 点検及び評価の基本方針

(1) 目的

桶川市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会へ報告するとともに市民に広く公表することを目的としています。

(2) 点検及び評価の対象と方法

桶川市では、新たに平成23年4月より次の10か年を期間とした「桶川市第五次総合振興計画」がスタートし、教育行政の基本方針もこの計画を基に策定していることから、各課（館）で実施している個別事業を点検及び評価の対象とし、評価方法については、個別事業ごとに「桶川市第五次総合振興計画」の「施策の大綱」、「施策」、「基本事業」を選択し、「事業実績」、「実績に対する評価」、「27年度以降の取組み」について点検及び評価を実施しています。

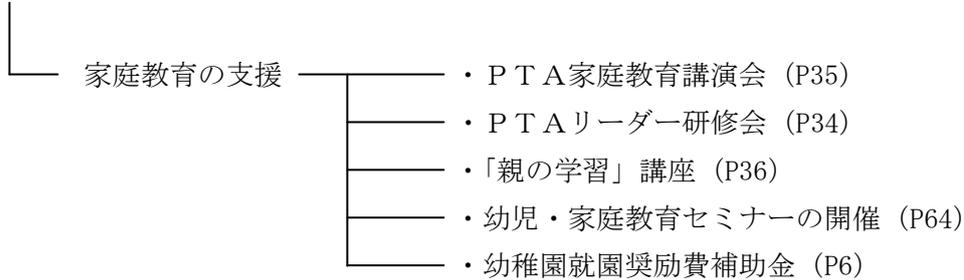
3 事業体系

平成26年度に桶川市教育委員会が実施した事業体系は、次頁のとおりです。

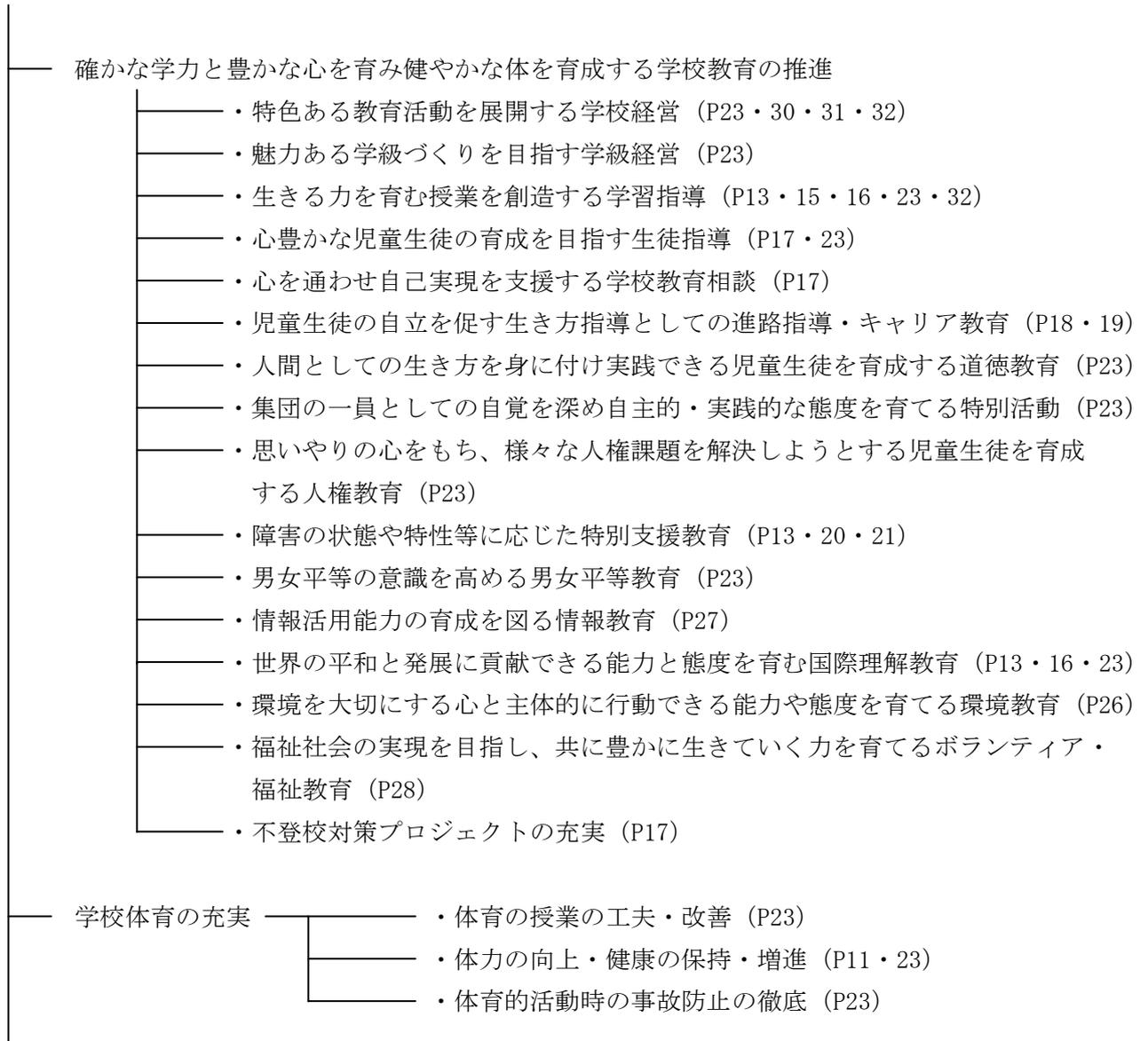
※平成26年度「桶川の教育」より

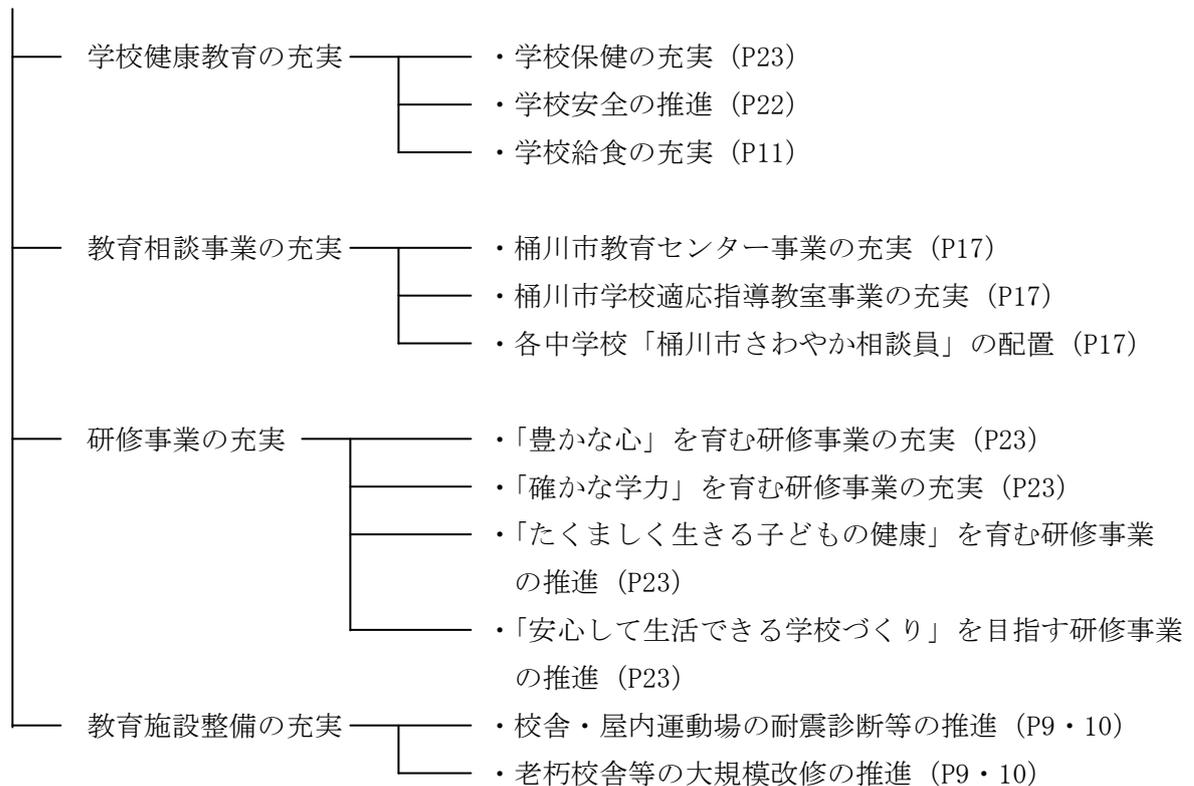
平成 26 年度桶川市教育委員会事業体系図

1 心身ともに健やかに成長できる幼児期における家庭教育の支援

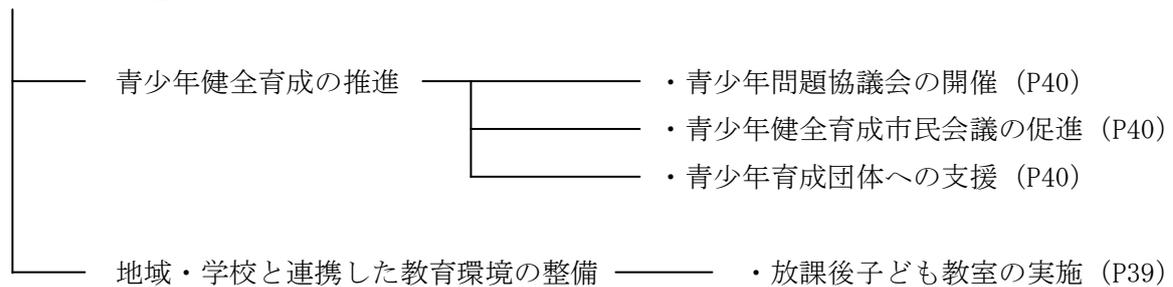


2 確かな学力と豊かな心を育み健やかな体を育成する学校教育の推進

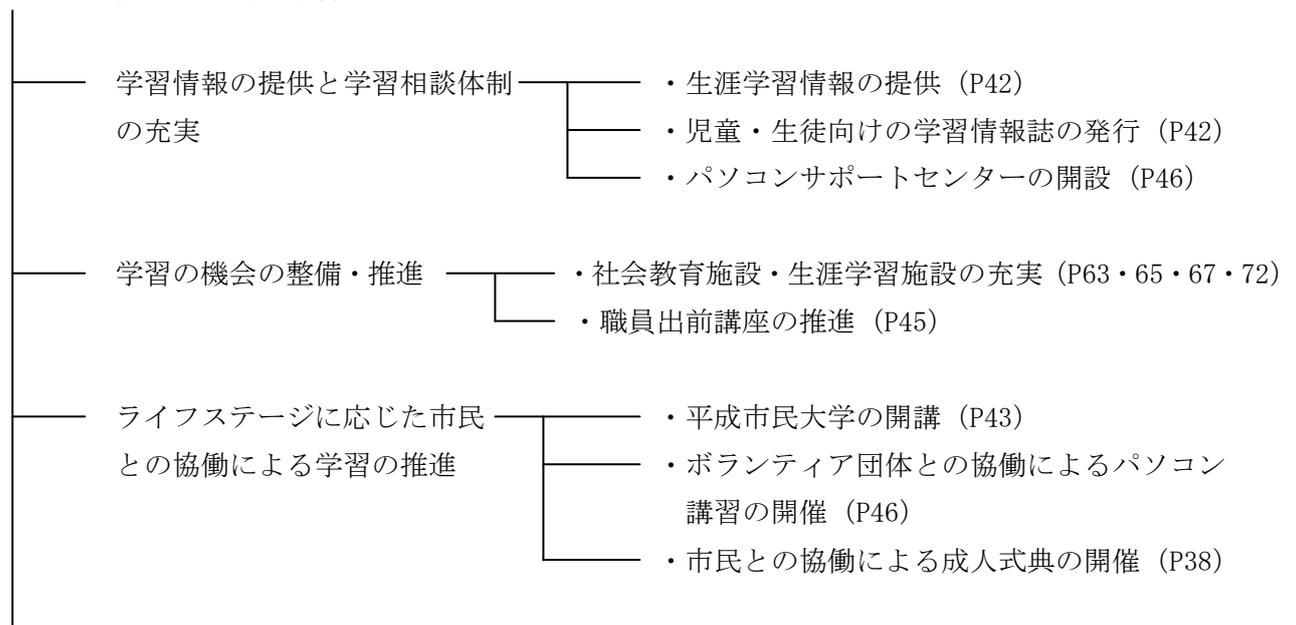


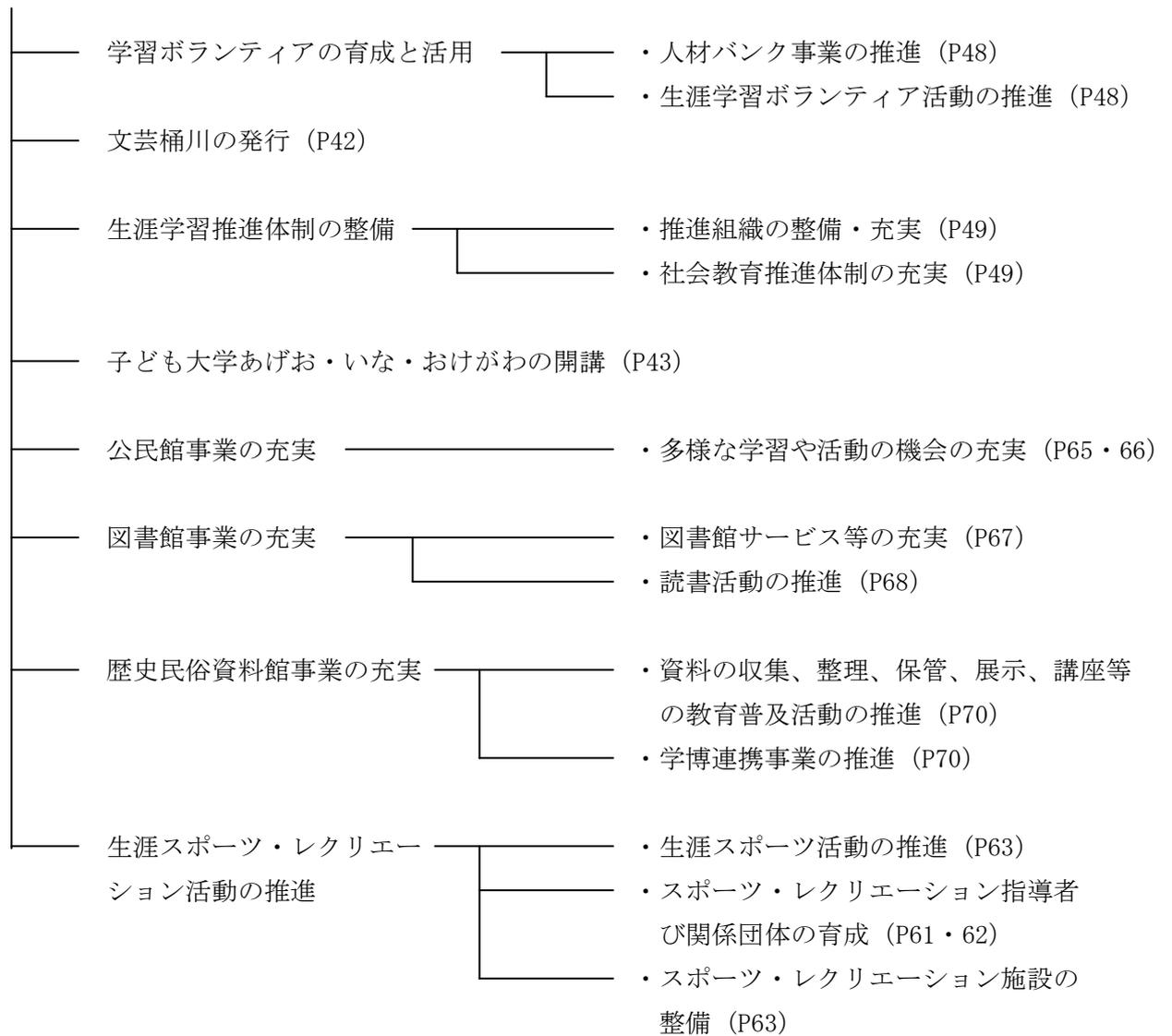


3 家庭と地域の連携の下に青少年の社会性を育む環境づくりの推進

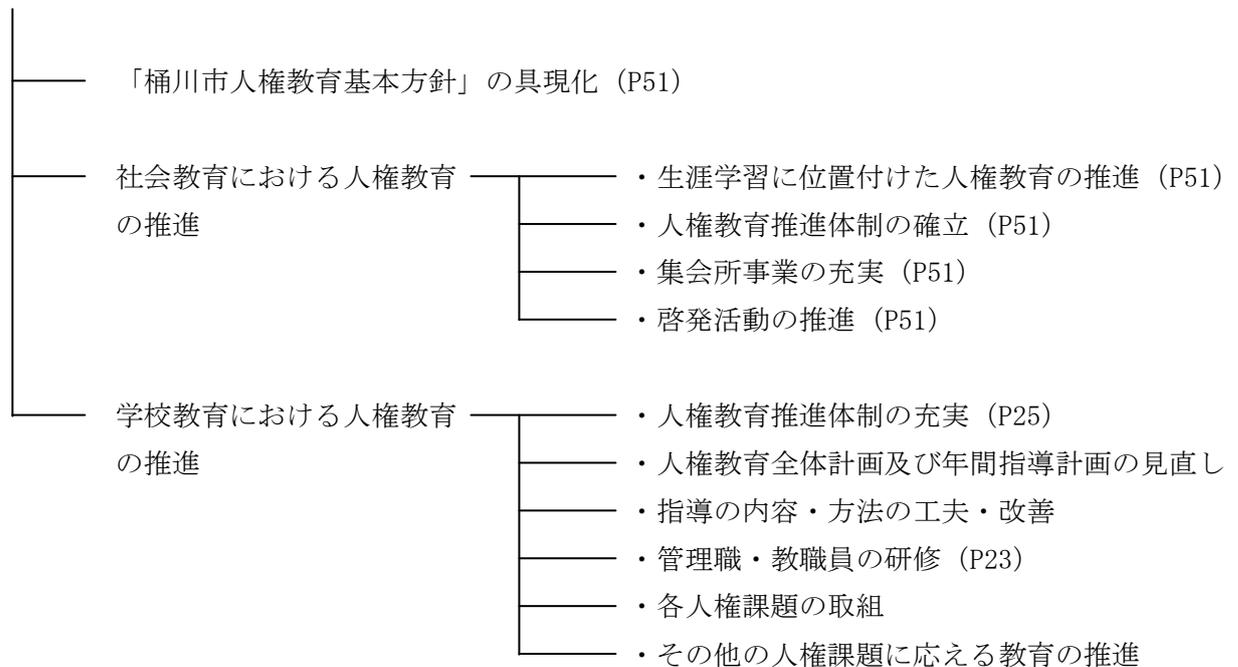


4 市民との協働による生涯学習・スポーツの推進

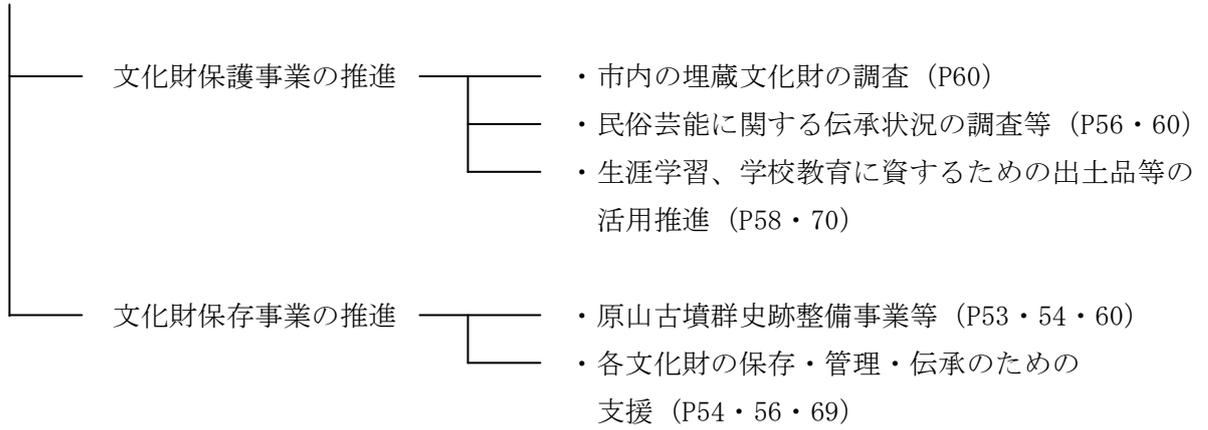




5 生命を大切にし、人権を尊重する教育の推進



6 文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進



施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	幼稚園就園奨励費の拡充（2013）		
事業名	幼稚園就園奨励事業		
予算額	147,777,000円	決算額	147,033,700円

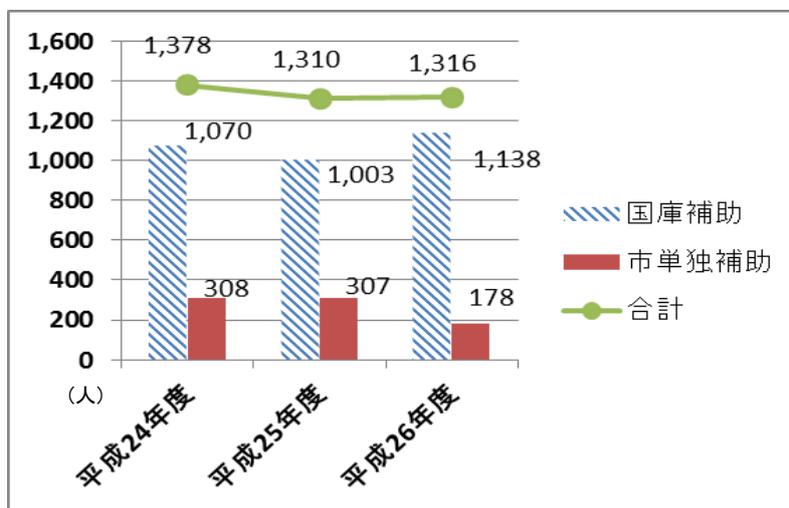
1 事業概要

国費による就園奨励費補助事業に加え、市費による補助事業も併せて行うことにより園児保護者の経済的負担の軽減を図るとともに、幼稚園への就園を奨励する。

2 事業実績

(1) 幼稚園就園奨励費補助金

国庫補助対象分として1,138人、145,535,500円、市単独補助分として178人、1,198,900円を補助した。



補助対象者数の推移

(2) 私立幼稚園事務費助成金

幼稚園の事務に対する補助として、市内幼稚園設置者7園に対し、総額299,300円を交付した。

3 上記2に対する評価

(1) 国の補助階層区分が拡大したことにより、幼稚園教育を希望する保護者に対して必要な援助をすることができた。

4 27年度以降の取組

(1) 子育て世代の保護者負担を軽減し、就園率を高めるために有効な施策であることから、27年度以降も引き続き支援を行っていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	入学準備金貸付事業		
予算額	6,000,000円	決算額	1,600,000円
1 事業概要			
<p>経済的に不安を抱える生徒の保護者に対して高等学校、大学、専門学校等への入学にかかる費用の貸付を行う。</p>			
2 事業実績			
(1) 貸付状況			
<p>平成26年度の貸付申込者は8人であった。内3人が連帯保証人の要件を満たす者がいないとの理由等から辞退をし、5人については審査の上、貸付を行った。</p> <p>＜過去3年間の貸付の推移＞</p>			
年度	貸付金額	件数	内 訳
24	3,800,000	11	高校 2、専門学校 1、大学 8
25	3,400,000	13	高校 9、専門学校 0、大学 4
26	1,600,000	5	高校 2、専門学校 0、大学 3
(2) 貸付総額に対する返済の状況			
	貸付総額(人数)	左記に対する返済状況 (%)	
	21,900,000円 (69人)	① 平成26年度の返済額	3,940,000 ＜総返済済金額＞ 11,372,500 (52%)
		② 未返済金額	2,807,500 (13%) ＜内10年以上経過＞ 685,000
		③ 平成27年度以降に返済が予定される金額	7,720,000 (35%)
3 上記2に対する評価			
(1) 貸付状況			
<p>平成26年度はここ3年間では、最も少ない貸付件数となっているが、必要な方に必要な支援を行うことができた。</p>			
(2) 償還困難となっている案件については、			
<p>訪宅や電話連絡、また顧問弁護士への相談など行ってきたが、未返済金額を減らすことには至らなかった。</p>			
4 27年度以降の取組			
(1) 申し込み受付期間及び広報の仕方について検討を行う。			
(2) 償還困難となっている長期の案件については、納付を促す働き掛け等を行う。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	小・中学校図書購入事業		
予算額	5,920,000円	決算額	5,924,635円

1 事業概要

児童・生徒に本を選んで読む経験、読書に親しむきっかけを与える学校図書室の図書購入を行った。

2 事業実績

小・中学校全体で5,920,000円の予算を学校に配当し、小学校で3,365,482円、中学校で2,559,153円の図書を購入した。

＜平成26年度小・中学校図書室蔵書数等＞

	標準冊数	増加冊数	廃棄冊数	現有冊数	標準達成率(%)		
					24年度	25年度	26年度
小学校全体	70,920	2,568	1,216	71,578	96.4	98.7	100.9
中学校全体	49,920	1,624	502	50,376	97.1	98.7	100.9

＜平成26年度小・中学校別図書室蔵書数等＞

学校名	標準冊数	増加冊数	廃棄冊数	現有冊数	標準達成率(%)
桶川小	11,560	277	270	13,543	117.2
桶川西小	11,560	474	84	11,396	98.6
加納小	8,360	435	100	8,042	96.2
川田谷小	8,360	342	275	8,576	102.6
桶川東小	11,160	439	200	10,392	93.1
日出谷小	9,560	292	0	8,869	92.8
朝日小	10,360	309	287	10,760	103.9
桶川中	13,600	463	0	12,973	95.4
桶川東中	13,600	463	14	12,811	94.2
桶川西中	13,120	356	395	14,952	114.0
加納中	9,600	342	93	9,640	100.4

3 上記2に対する評価

(1) 各小・中学校とも「学校図書館図書標準」の達成を目標として取り組んだ結果、蔵書数を増やすとともに、標準達成率（平均）を100%にすることができた。

4 27年度以降の取組

(1) 図書標準達成率は平均値では100%に達しているが、各小・中学校で比較するとバラつきが見られる。よって、27年度以降は各学校との連携をより密にし平成29年度までに市内全小・中学校において、学校図書館の図書標準の100%達成を目指す。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	小学校整備事業		
予算額	182,200,000円	決算額	174,783,679円
1 事業概要			
学校の教育力の維持向上のため、安全で快適な学習環境を整備する。			
2 事業実績			
(1) 修繕について			
〈平成26年度の件数、決算額〉			
	件数	前年比	決算額(円) 前年比
桶川小	36	29%	2,132,069 6%
桶川西小	30	-46%	3,572,522 43%
加納小	20	11%	1,174,229 -70%
川田谷小	13	-43%	776,898 -40%
桶川東小	35	21%	1,785,548 -3%
日出谷小	25	14%	2,583,650 59%
朝日小	30	25%	1,774,739 47%
合計	189	-6%	13,799,655 -4%
(増減の理由)			
・桶川西小の件数が減少し決算額が増加しているのは、1件あたりの額が大きい修繕（給食室の床修繕1,299,240円等）を、前年度に比べて多く実施したためである。			
・加納小の件数は微増であるにも関わらず決算額が大幅に減少しているのは、前年度の大雪に伴い学校施設に例年より甚大な被害があったためである。			
(2) 工事について			
①朝日小屋内運動場大規模改修工事を実施した。 契約額142,128,000円 (工事・監理費含)			
②桶川東小プールろ過機改修工事を実施した。 契約額8,424,000円			
3 上記2に対する評価			
(1) 緊急性や小学校の要望等を踏まえ、適切に修繕を進めることができた。			
(2) 朝日小屋内運動場大規模改修工事により、児童の学習環境が改善され、バリアフリー化により、車椅子利用者の利便が向上した。			
4 27年度以降の取組			
(1) 真に必要性の高い学校施設等について、順次計画的に整備を行うための「老朽化対策基本計画」を策定する。			
(2) 施設の修繕については、27年度以降も緊急性等を加味しながら実施していく。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	中学校整備事業		
予算額	16,800,000円	決算額	16,418,668円
1 事業概要			
学校の教育力の維持向上のため、安全で快適な学習環境を整備する。			
2 事業実績			
(1) 修繕について			
〈平成26年度の件数、決算額〉			
	件数	前年比	決算額(円)
			前年比
桶川中	37	76%	2,472,179
桶川東中	27	-7%	3,068,545
桶川西中	28	0%	2,702,256
加納中	42	27%	3,104,620
合計	134	21%	11,347,600
(増減の理由)			
<ul style="list-style-type: none"> ・桶川東中と桶川西中で決算額が減少しているのは、前年度の大雪に伴い学校施設に例年より甚大な被害があったためである。 ・桶川中は対前年度比では大幅な増加が見られるが、前々年度と比較した場合、大差は見られない。 			
(2) 工事について			
①桶川東中学校パソコン教室エアコン改修工事を実施した。 契約額 1,270,000円			
②桶川西中学校音響設備改修工事を実施した。 契約額 1,157,112円			
3 上記2に対する評価			
(1) 緊急性や中学校の要望等を踏まえ、適切に修繕を進めることができた。			
(2) 安全面、管理面などを考慮し、整備を適切に進めることができた。			
4 27年度以降の取組			
(1) 施設の修繕については、27年度以降も緊急性等を加味しながら実施していく。			
(2) 真に必要性の高い学校施設等について、順次計画的に整備を行うための「老朽化対策基本計画」を策定する。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	小・中学校給食業務		
予算額	209,861,000円	決算額	209,079,286円
1 事業概要			
(1) 桶川市学校給食運営事業 学校給食の実施計画、給食用物資選定及び献立作成等については、桶川市学校給食運営委員会で検討した。			
(2) 学校給食調理業務 各小・中学校の学校給食は自校方式で行っている。調理業務については、（公財）桶川市施設管理公社に委託した。			
(3) 学校給食の放射線量測定 学校給食用食材の放射線量の測定を、市内小中学校11校全校において順番に実施した。			
(4) 食育の推進 栄養教諭等を中心とした食育指導の充実を図る取組を行った。			
2 事業実績			
(1) 桶川市学校給食運営事業			
ア 給食費 小学校：月4,000円（1食234円） 実施回数 年間191回 中学校：月4,550円（1食272円） 実施回数 年間187回			
イ 献立作成 桶川市学校給食運営委員会専門部会において、栄養教諭・学校栄養職員で構成される献立検討会を毎月3回実施し、地産地消の観点から地元産の食材を利用した献立作成に努めた。			
ウ 桶川市学校給食運営委員会 学校給食運営上の課題（諸会議の運営方法、給食物資選定の方法、給食残渣等）について、改善に向けた協議を行い、平成27年度取組計画を策定した。			
(2) 学校給食調理業務			
ア 学校給食調理業務委託（193,740,360円） 給食物資の調達・発注、物資納入業者との契約・指導、献立に基づく調理及び食器等の洗浄、給食室内の衛生管理等について、（公財）桶川市施設管理公社に委託した。			
イ 調理作業機器等の更新（6,043,980円） 調理機器（炊飯器）[桶川小] 冷蔵機器（冷蔵庫）[桶川東小] 加熱機器（コンベクションオーブン）[日出谷小・加納中] その他の給食関連機器（移動シンク等）			
ウ 給食室備品の点検・保守（2,545,224円） 検査委託、グリスストラップ、設備保守、設備洗浄、消毒等			
(3) 学校給食の放射線量測定（1,213,166円）			
ア 給食用食材の測定			

消費者庁の放射線測定機器第4次配備計画による測定機器の貸与があり、4月から翌年3月まで3品目を週4回1校ずつローテーションで放射線量の測定を実施した。

(4) 食育の推進

ア 桶川東小・朝日小・桶川小・桶川東中の4校に栄養教諭を配置し、栄養教諭及び学校栄養職員を中心として食育の推進事業を行った。

イ 桶川東小において、食育指導力授業研究協議会を開催し、栄養教諭等が学級担任と連携した食育に関する授業研究会を実施した。

3 上記2に対する評価

(1) 桶川市学校給食運営委員会の事業について

ア 献立作成

地産地消の促進という観点から、できる限りの食材を地元から確保する努力をし、地元産食材の割合を小中平均で27.5%（平成26年11月現在）にすることができた。

イ 学校給食運営委員会

年4回の学校給食運営委員会を開催し、アレルギー対応マニュアルの策定や規約の改正等を検討ができた。

(2) 学校給食調理業務について

ア 学校給食調理業務委託

(ア) (公財)桶川市施設管理公社との調整を経て、安心・安全な食材にて、安定した給食供給を行うことができた。

(イ) 支払業務など事務処理についても、学校事務員及び(公財)桶川市施設管理公社との連絡を充実させることにより、円滑な運営ができた。

イ 調理作業機器等の更新

老朽化した給食設備備品の更新を計画的に行うことができた。

(3) 学校給食の放射線量の測定

計画どおり適切に測定し、測定値をホームページで公表することによって、保護者に対して、安心・安全な学校給食の実施を伝えることができた。

(4) 食育の推進

食育の指導については、学級担任と栄養教諭・学校栄養職員とのティーム・ティーチングによる授業を、学校の年間指導計画に位置づけ、計画的に行うことができた。

4 27年度以降の取組

(1) 学校給食運営委員会を活用し、学校給食運営上の諸課題について検討し、改善を図る。

(2) 安心安全な食材の確保及び地産地消の促進を図る。

(3) 給食費未納者に対する組織的な対応について、実態を把握し、必要に応じ改善していく。

(4) 食育の授業の充実と質の向上を目指す。

(5) 学校における各マニュアルについて、改善していく。

(6) 消費税等の今後の動向を見極め、給食費への影響について検討する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	補助員配置事業		
予算額	47,792,000円	決算額	47,418,790円
1 事業概要			
児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図るため、各種補助員を小・中学校に配置した。			
2 事業実績			
(1) 教育指導補助員配置事業（22,481,085円）			
各小・中学校に2人ずつ（合計22人）、教育指導補助員を配置した。小学校低・中学年ではおもに学習指導補助（国語、算数、体育）、高学年では音楽におけるピアノ伴奏、理科、算数における学力向上に向けた学習指導補助等を行った。中学校では数学を中心とした学習指導補助の他、保健体育、理科の学習指導補助を行った。また、補助員の資質向上を図るため、研修会を実施した。			
配置状況：年間185日（原則として週5日、1日5.5時間）			
(2) 特別支援指導補助員配置事業（23,392,105円）			
各校の状況に応じて、10校に合計23人の特別支援指導補助員を配置した。主に技能教科での補助的支援や個別の声かけ、日常生活への適応について支援を行った。また、補助員の資質向上を図るため、研修会を実施した。			
配置状況：年間185日（原則として週5日、1日5.5時間）			
小学校 桶川小6人、加納小2人、川田谷小1人、桶川西小4人、桶川東小2人、日出谷小1人、朝日小2人（合計18人）			
中学校 桶川中2人、桶川東中2人、加納中1人（合計5人）			
(3) 日本語指導員配置事業（969,600円）			
日本語の指導を要する児童生徒が在籍する小・中学校5校に、3人の補助員を配置した。日本語指導員は、通常の学級に在籍する外国籍の児童生徒に対する支援として、日本語指導及び教育指導の補助にあたった。また、指導員の資質向上を図るため、研修会を実施した。			
配置状況：年間40日（原則として週2日、1日4時間）			
小学校4校（桶川小、加納小、桶川東小、日出谷小）スペイン語、英語、中国語			
中学校1校（桶川中）中国語			
(4) 小学校理科支援員配置事業（576,000円）			
小学校理科の授業における学習指導補助（実験・観察の準備や片付け、学習の支援等）を行うため、小学校理科支援員を各小学校に1人配置した。（2学期）			
また、指導員の資質向上を図るため、巡回指導を実施した。			
配置状況：川田谷小 40日			
桶川小・加納小・桶川西小・桶川東小・日出谷小・朝日小 20日			

3 上記2に対する評価

(1) 教育指導補助員配置事業

- ア 担任や教科担当と連携し、学習内容の理解に時間を要する児童生徒への支援を行うことにより、一人一人の理解の程度に応じたきめ細かな指導を行うことができた。
- イ 「読み」「書き」「計算」など基本的な学力の定着に効果が表れ、学習意欲の向上や落ち着いた学習態度の醸成にも結びついた。
- ウ 多くの支援を必要とする児童生徒もおり、丁寧に対応するためにもより多くの補助員を配置すること及び人員の確保が課題である。

(2) 特別支援指導補助員配置事業

- ア 特別な教育的支援を要する児童生徒にきめ細かで適切な支援を行うことができた。
- イ より多くの支援を必要とする児童生徒がいるため、状況に応じて十分な支援を行うためにも、補助員の増員と人員の確保が課題である。

(3) 日本語指導員配置事業

- ア 日本語指導員が授業中の学習支援や個別の学習指導を行うことで、支援・指導を受けた外国人児童生徒は、ひらがなやカタカナを習得することができ、日本語による学習に慣れることができた。
- イ 日常生活で他の児童生徒とのコミュニケーションが深まり、安心して学校生活を送ることができるようになった。

(4) 小学校理科支援員配置事業

- ア 小学校理科の授業における観察・実験の支援や観察・実験の準備、後片付けを行うことで、理科教育の充実を図ることができた。また、指導主事による巡回指導を実施し、より効果的な活用を図ることができた。

4 27年度以降の取組

(1) 教育指導補助員配置事業

- ア 学力向上を一層充実させるため、児童生徒の実態に応じて補助員の人材確保に努める。
- イ 補助員の資質の向上を図るための研修をさらに充実させていく。

(2) 特別支援指導補助員配置事業

適切な教育的支援が行えるよう特別支援指導補助員の人材確保と増員、複数年配置すること等を検討する。

(3) 日本語指導員配置事業

外国籍の児童生徒の状況を把握し、継続した日本語指導が行えるよう、指導員を複数年配置することを計画していく。

(4) 小学校理科支援員配置事業

- ア 理科教育の充実を図るため、本事業の効果の検証を行い、継続する。
- イ 理科支援員を有効に活用できるよう巡回指導等を行い、資質の向上を図る。

(5) 小1プロブレム学級支援員配置事業

小学校低学年(原則1年生)の学校生活適応に係る支援及び生活指導補助・安全確保・各教科等の指導補助のため、補助員を配置する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	学校図書館教育補助員配置事業		
予算額	5,280,000円	決算額	5,385,300円
1 事業概要			
小・中学校に学校図書館教育補助員を配置し、学校図書館教育、読書指導の充実を図った。			
2 事業実績			
小・中学校に各1人、学校図書館教育補助員を配置した。（5,385,300円） 配置状況：年間120日（原則として週3日、1日5時間勤務）			
(1) 児童生徒への読書指導			
ア 学級担任や教科担当との連携により、総合的な学習の時間や国語科等における学習の補助を行った。			
イ 学校応援団の図書ボランティアと連携して、始業前や昼休みの時間を活用して、読み聞かせ活動を行った。			
(2) 蔵書の修復や整理、貸出し等の補助			
(3) 学校図書館の環境整備			
ア 司書教諭と連携して、図書の効果的な配置、季節感のある掲示及び本の紹介を行い、学校図書館の環境整備に取り組んだ。			
イ 市立図書館から図書の団体貸出を利用し、校内の教育活動に活用した。			
ウ 補助員対象の研修会を実施した。実施日：平成26年11月10日（月）			
3 上記2に対する評価			
(1) 児童生徒への読書指導			
ア 図書を活用した多様な学習活動が可能となり、各教科の調べ学習や探究的学習が円滑に行われた。			
イ 朝の読書活動の取組などにより、児童生徒に読書習慣の定着が図られた。			
(2) 蔵書の修復や整理、貸出し等の補助			
ア 学校応援団の図書ボランティアと連携して、蔵書の修復や整理等を計画的に行い、学校図書館の環境の向上が図られた。			
イ 司書教諭と連携し、図書の貸し出しを円滑に行うことができた。			
(3) 学校図書館の環境の整備			
ア 蔵書の数を充実させながら、室内の環境を整えることによって、児童生徒が行きたくなる学校図書館を実現することができた。			
イ 市立図書館と連携することによって、より多くの図書を提供することが可能となり、校内における学習情報のセンター的機能を果たすことができた。			
ウ 補助員対象の研修会を通して、学校図書館の一層の充実及び市立図書館との連携の在り方について研修し、資質の向上を図ることができた。			
4 27年度以降の取組			
(1) 学校図書館の機能の一層の充実のため、研修会を実施して、学校図書館教育補助員の資質向上を図る。また、セカンドブック事業の推進に向け、積極的な活用を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	英語指導助手配置事業		
予算額	18,400,000円	決算額	18,235,500円
1 事業概要			
小学校に3人、中学校に2人の英語指導助手を配置し、国際理解教育や外国語活動・英語教育の推進を図った。			
2 事業実績			
(1) 小学校の英語指導助手（10,888,800円）			
ア 配置状況			
A指導助手：桶川小124日・日出谷小84日			
B指導助手：桶川西小103日・桶川東小103日			
C指導助手：加納小65日 川田谷小68日 朝日小86日			
イ 活動状況			
(7) 高学年の外国語活動で、学級担任とチームティーチングを行った。			
(4) 中学年の総合的な学習の時間や低学年の生活科、給食、清掃活動等の時間を通して児童と交流し、外国語や外国の文化に触れる機会を設定した。			
(7) 教員に対して外国語活動の指導についての研修を行った。（夏季休業中）			
(2) 中学校の英語指導助手（7,346,700円）			
ア 配置状況			
D指導助手：桶川東中86日・桶川西中90日			
E指導助手：桶川中114日・加納中73日			
イ 活動状況			
(7) コミュニケーション活動を中心に、教科担任とのチームティーチングを実施した。			
(4) 授業以外の場面での交流をもつとともに、英語教材作成の補助及び英語暗唱弁論大会の指導等を行った。			
3 上記2に対する評価			
(1) 小学校の英語指導助手について			
ア 高学年においては、英語指導助手との授業等を通して、児童が英語を身近に感じ、外国語活動での理解が一層図られた。			
イ 低・中学年においては、ゲーム、歌等の活動を通して、外国人や外国の文化に慣れ親しみ、国際理解教育を柱とする学習活動の充実を図ることができた。			
(2) 中学校の英語指導助手について			
ア 生徒がより意欲的に学習に取り組める英語教材の効果や日常活動における交流の促進により、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度が育成された。			
イ 英語暗唱・弁論大会の指導等により、生徒のスピーチ力が向上した。			
4 27年度以降の取組			
(1) 外国語活動・外国語の授業を一層効果的に推進するため、授業等の状況を把握し、委託業者と連携して、英語指導助手の資質向上に努める。			
(2) 各学校における学習指導等を工夫し、英語指導助手の活用の改善を図る。			

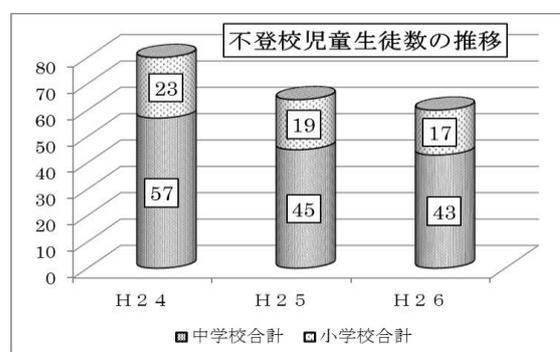
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	教育相談事業		
予算額	15,408,000円	決算額	15,222,505円

1 事業概要

- (1) さわやか相談員を各中学校に配置した。
- (2) 桶川市教育センターに所長を配置し、教育相談事業及び適応指導教室事業を実施した。教育相談事業では、カウンセラー及び相談員を各2名配置し、面接相談等を行った。また、指導員3名を配置し、適応指導教室「けやき教室」を開設し、不登校児童生徒に係る支援を行った。
- (3) スクールカウンセラーを2週に1日、各中学校に配置した。

2 事業実績

- (1) さわやか相談員（8,001,600円）
来室相談件数：3,440件
電話相談件数：1,089件
- (2) 桶川市教育センター（7,220,905円）
開所日数：235日 相談件数：562件
けやき教室通級人数：小学生 4人
中学生 7人
- (3) スクールカウンセラー（県費負担）
相談者数（述べ人数）：小学校 19件 中学校 594件



3 上記2に対する評価

- (1) さわやか相談員
 - ア 在籍する生徒が直接相談でき、学級担任や養護教諭等と連携して指導や支援を行うことができた。
 - イ 保護者に対して、身近な相談員として相談に応じることができ、いじめへの迅速な対応、不登校児童生徒への適切な対応に効果をあげた。
- (2) 桶川市教育センター（適応指導教室を含む）
 - ア カウンセラー及び相談員が子供の行動や発達等の課題について、保護者等からの相談に面接や電話で応じた。
 - イ 不登校児童生徒に対して指導員が、学校への復帰のための支援を適切に行った。
- (3) スクールカウンセラー
不登校や発達障害が疑われる等、特別な教育的配慮を要する児童生徒に対して、専門的な見地から相談に応じ、適切な支援の在り方を保護者及び教員に助言し、一定の効果を上げた。

4 27年度以降の取組

- (1) 教育センターに所長を配置し、在籍校の担任や教育相談主任との連絡会等、小・中学校との連携を強化し、教育相談、適応指導において、市内の教育相談体制の一層の充実を図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる				
施 策	学校教育の充実（202）				
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）				
事業名	中学生社会体験チャレンジ事業				
予算額	260,000円	決算額	260,000円		
1 事業概要					
生徒が将来をよりよく生きるために、望ましい職業観や公平な社会性への理解を深めるなど、進路指導・キャリア教育の充実を図るため、全中学校で生徒の職場体験を行った。					
2 事業実績					
(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の開催					
ア 実施日 第1回：平成26年5月23日（金） 第2回：平成27年1月22日（木）					
イ 委員 桶川市商工会、桶川青年会議所、桶川ロータリークラブの代表者 桶川市PTA連合会長、各校PTA会長、各校（校長・事業担当者）					
ウ 内容 職場体験活動の目的の確認、依頼する事業所の確認、各校の情報交換					
(2) 各校における実績					
ア 体験期間：3日間、参加生徒数：653人					
イ 協力事業所数：延べ157事業所					
学校名	実施学年	実施期間	人数(人)	事業所数	交付金(円)
桶川中	第1学年	11月18日～20日	192	43	74,000
桶川東中	第2学年	9月2日～4日	165	37	69,000
桶川西中	第2学年	9月10日～12日	183	45	73,000
加納中	第2学年	7月9日～11日	113	33	44,000
3 上記2に対する評価					
(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の開催					
ア 市内中学校4校で情報交換を行うことで、新たな受入れ事業所を掌握するとともに、よりよい事業の運営ができた。					
イ 桶川市商工会、桶川市青年会議所や各校PTA会長の参加により事業所への依頼を円滑に行うことができた。					
(2) 各校の取組					
ア 生徒は職場体験を通じて、「働くことに対する責任感」を学ぶことができた。					
イ 参加した生徒の保護者からは、地域に支えられたことへの感謝と、地域社会との連携した教育活動に対しての賛同を得ることができた。					
4 27年度以降の取組					
(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の充実を図り、学校間の情報交換を深める。					
(2) 桶川市商工会、桶川市青年会議所等と連携を深め、市内全域及び近隣市を含めてより多くの新規受入れ事業所を確保する。					

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる			
施 策	学校教育の充実（202）			
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）			
事業名	進路意識啓発事業（ふれあい講演会）			
予算額	40,000円	決算額	40,000円	
1 事業概要				
進路指導の一環として、生徒や保護者の進路意識を啓発するために「ふれあい講演会」を実施し、地域で活躍する職業人の講演を聞く機会を提供した。				
2 事業実績				
(1) 本事業は、県の補助金によって実施されている事業である。				
(2) 各校の実施内容（10,000円×4校）				
学校名	講 師	参加人数	実施日	内 容
桶 川 中	JICA 経験者	608 人	10 月 24 日	JICA の活動から学んだこと
桶川東中	会社経営者	553 人	6 月 11 日	目標をもって生きる
桶川西中	警視庁刑務部師範	580 人	9 月 19 日	身を守ることの大切さ
加 納 中	旅行会社員	373 人	10 月 25 日	世界を知ることによって開ける世界
3 上記2に対する評価				
(1) 社会で活躍する方のこれまでの経験を聞くことで、学校生活では知ることのできない職業の苦労ややりがい、職業に対する考え方などに触れ、生徒が自らの将来の進路や生き方を考える機会となった。				
(2) 保護者にも公開したことで、将来の生き方や進路に対する意識を保護者に対しても啓発することができた。				
(3) 国及び県からの講師の派遣事業や、市内の情報を各校に提供し、要望に応じた講師の選定等、事業の趣旨を踏まえて取り組むことができた。				
4 27年度以降の取組				
(1) 引き続き、県や市からの情報を集約して各校に提供すること、各校の講師の選定が円滑に行われ、より効果的な事業実施ができるよう支援していく。				

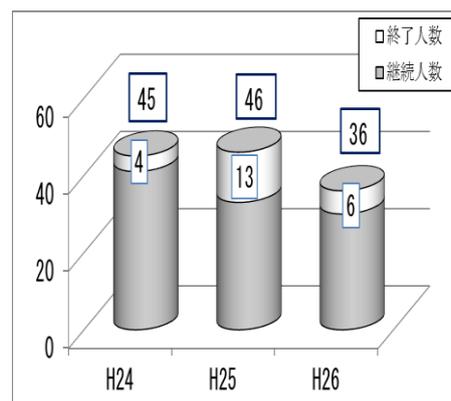
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	ことばの教室事業		
予算額	1,590,000円	決算額	1,590,000円

1 事業概要

ことばの発達に不安のある保護者や児童生徒に対して、専門的な指導を行った。

2 事業実績

開設日数 75日
 開設時間 午後1時～5時（4時間）
 通級児童数 36人（小学生34人、中学生2人）
 終了児童数 6人



(1) 言語聴覚士による言語指導（1,590,000円）

ア 「ことばやきこえ」の発達を支援するため、桶川西小学校内に桶川市ことばの教室を設置し、言語聴覚士による専門的な指導を行った。

イ ことばを増やすための指導や正しい発音へと導く指導等、児童生徒一人一人の状態に応じた適切な個別指導を行った。

(2) 保護者の来所相談 8件

児童生徒の言語指導への理解を保護者と共有するための来所相談を行った。

(3) 言語指導に係る学校との連携

対象となる児童生徒の在籍する小・中学校における特別支援教育コーディネーター及び学級担任との連絡協議会を夏季休業中に実施し、指導の充実が図られるよう連携を強化した。

3 上記2に対する評価

(1) 言語聴覚士による言語指導

言語聴覚士による専門的な指導を受けることで、話すときのことばの数が増えたり、正しい発音ができたりとことばの発達が見られ、学習意欲の向上にもつながった。

(2) 保護者の来所相談

専門的立場から保護者が助言を受けることで、子供への理解が深まり、保護者と連携してより円滑な支援を行うことができた。

(3) 言語指導に係る学校との連携

連絡協議会を実施することにより、在籍校でのことばの指導の方法や児童の支援について、特別支援教育コーディネーター等在籍校の教員との共通理解を図ることができた。

4 27年度以降の取組

(1) ことばの教室への相談、入級の希望に対応するため、今後も継続して言語聴覚士を配置するとともに、在籍校との連携を充実させる。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業		
予算額	294,000円	決算額	293,970円

1 事業概要

通常の学級に在籍する発達障害や情緒障害がある児童に対し、必要な教育支援を行った。

2 事業実績

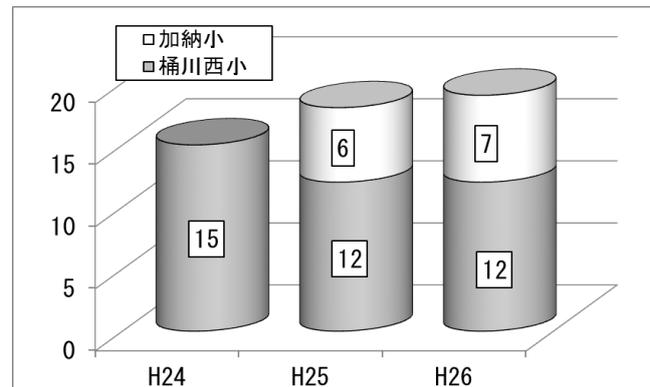
教室通級状況（通級児童数）

平成26年度 19人

桶川西小教室 12人

加納小教室 7人

桶川市発達障害・情緒障害通級指導教室「大空」を、桶川西小学校及び加納小学校内に開室し、学校生活や社会生活への適応に支援が必要とされる児童を対象として、担当教員による児童の状況に応じた個別指導及び少人数指導を行った。



3 上記2に対する評価

- (1) 個別指導及び少人数指導を行うことで、通常学級の授業に参加する力や通常学級に適応する力を向上させることができた。
- (2) 児童一人一人の状況に応じて、コミュニケーション能力の向上や、学習への苦手意識の改善等につなげることができた。
- (3) 通級教室担当教員が、学期に1回在籍校を訪問して授業観察及び担任との情報交換を行い、通級児童への指導・支援について連携を図ることができた。また、年間3回保護者会を実施し、保護者との共通理解を深めることができ、児童のより良い支援につなげることができた。

4 27年度以降の取組

- (1) 通級希望の児童が増加するなか、児童一人一人にきめ細かな対応をするため、通級指導教室と通級児童の在籍校、通級児童の保護者との連携について、桶川市として効果的な体制を確立する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校応援団推進事業		
予算額	750,000円	決算額	750,000円
1 事業概要 学校が家庭や地域との連携を図り、学校運営を支援する体制づくりを推進した。			
2 事業実績 小・中学校全校に学校応援団が設置され、各校の計画に応じて、学校支援活動が行われた。 (1) 学校支援活動（55,000円×11校） ア 小学校7校（ボランティア数：751人） （ア）安心安全への支援：登下校の見守り活動やあいさつ運動 （イ）学習活動への支援：ゲストティーチャーや本の読み聞かせ等の学習活動、図書書の整理等 （ウ）環境整備への支援：学校の環境整備のためのペンキ塗りや花壇・植木の剪定・除草等 イ 中学校4校（ボランティア数：164人） （ア）安心安全への支援：登下校の見守りやあいさつ運動 （イ）環境整備への支援：学校の環境整備のためのペンキ塗りや花壇・植木の剪定・除草等 (2) 学校応援団事務局の活動（145,000円） ア 学校応援団実行委員会 平成26年11月27日（木）に開催 イ 学校応援団活動報告書の作成 ウ 学校応援団「ボランティア保険」の加入			
3 上記2に対する評価 (1) 学校支援活動の内容 ア 各小・中学校に学校応援団が設置され、各校の状況に応じて活動を行うことができた。 イ 学校と保護者や地域のボランティアが協働することで、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒を育てていこうとする意識が年々高まってきた。 (2) 学校応援団事務局の活動 ア 学校応援団実行委員会において、学校応援団コーディネーター研修会の報告を行い、コーディネーターの役割について、有効な意見交換をすることができた。 イ 各校の取組みをまとめた活動報告書を作成し、学校間で情報交換を行い、自校の活動の見直しに活用することができた。			
4 27年度以降の取組 (1) 各校の学校応援団の活動の活性化を図るため、学校応援団コーディネーターを中心に学校・家庭・地域が一層連携した活動になるよう、学校応援団実行委員会を機能させていく。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2021）		
事業名	教職員の資質・能力の向上推進事業		
予算額	2,680,000円	決算額	2,680,000円

1 事業概要

教職員の資質・能力の向上に向け、研修会の開催、学校訪問時の学習指導や学校課題研究への支援などを行った。

2 事業実績

(1) 教育委員会主催研修会（74,000円）

項 目	実施時期	内 容	参加対象者
桶川市教育講演会	5月13日	講演会「差別を抱きしめて」	全教職員
道徳教育研修会	7月28日	自校の道徳の指導力の向上に向けて	道徳主任・道徳推進教師
人権教育担当者研修会	8月6日	現地研修（岩殿観音）及び人権意識の高揚	人権教育主任
管理職等人権教育研修会	2月3日	人権教育の現状と課題の認識と実践力の向上	教頭・教務主任
生徒指導・教育相談 中級研修会	7月30日 8月5・6日	生徒指導・教育相談推進者として必要な 知識・技能の習得	希望教員
小学校英語活動研修	8月（各校）	英語活動の充実を図るための指導方法	小学校全教員
初任者研修	5.6.7.2月	教員として授業実践を通しての資質の向上	初任者教員
給食指導法研修会	7月31日	食育の充実に係る指導力向上	栄養教諭等
保健指導研修会	8月20日	心身の健やかな発達を促進するための指導の在り方	養護教諭等
体力向上研修会	7月3日 12月2日	体力づくり活動やその指導方法等の内 容の充実・改善	体育主任等
夏季学校経営・運営研修会	8月20日	学校経営・運営に係る諸問題についての協議及び今後の学校経営・運営の在り方	校長・教頭
臨時的任用教員研修会	7月2日・3日	臨時的任用教員に対する資質向上	臨時的任用教員

(2) 学校訪問（66,000円）

ア 定例訪問

南部教育事務所の協力を得て、各校を各2回訪問し、教育課程、学習指導、学校管理、その他学校運営に係る専門的事項について指導・助言を行った。

イ 各校の自主研修に伴う依頼訪問

各校の自主研修に伴い、各校2回から5回、指導主事が訪問したり、外部から講師を依頼したりして、自主研修に対する指導・助言を行った。

(3) 学校課題研究（2,530,000円）

小・中学校全校に交付金を交付し、それぞれの学校の研究を支援した。

交付金額：研究1年目140,000円 2年目230,000円 3年目（本発表）320,000円

また、本発表校には、研究発表会の開催に至るまで支援及び全体会での指導講評を行った。

学 校 名	研究領域	研修主題等	備 考
桶 川 小	体育科	ともに認め合い生き生きと活動する児童の育成	研究 2 年目
加 納 小	算数科	「わかった、できた」を味わうことのできる授業をめざして	10月31日本発表
川田谷小	算数科	基礎・基本を身につけ 学び合う児童の育成	研究 2 年目
桶川西小	道徳	よりよい自分をめざし、ともに生きる児童の育成	11月28日本発表
桶川東小	算数科	授業でキラキラ輝くけやつき子の育成	研究 2 年目
日出谷小	国語科	自分の思いや考えを豊かな言葉で表現できる児童の育成	研究 1 年目
朝 日 小	算数科	どの子にもわかる・できるを実感させる算数科学習	研究 1 年目
桶 川 中	学習指導	生きる力をはぐくむ授業の創造	研究 2 年目
桶川東中	学習指導	生徒一人一人が確かな学力を身につける学習活動の工夫	研究 2 年目
桶川西中	学習指導	知識・技能の活用を図り、確かな学力を育む指導方法の研究	11月18日本発表
加 納 中	学習指導	主体的に学び、確かな学力を育む指導方法の工夫	研究 1 年目

3 上記 2 に対する評価

(1) 教育委員会主催研修会

各校の教職員が、各研修会を通して、今後の教育に求められる専門的知識や児童生徒の指導に生かす指導方法について研修を実施することができた。

(2) 学校訪問

県教育局南部教育事務所からの支援を受け、学校訪問の際、各校の課題を踏まえて教育活動の改善を図るため、指導・助言を行うことができた。

(3) 学校課題研究

各校が自校の課題を解決するために、研究に取り組み、その成果を発信し、桶川市全体の教育活動の充実を図ることができた。

4 27年度以降の取組

(1) 初任者研修や市教委主催の研修会の内容をさらに工夫し、本市教職員の指導力向上に向けた研修を実施する。

(2) 初任から5年経験者までの若手教員の育成状況を把握するとともに、指導力の向上を図るため、学校訪問での指導主事等によるきめ細かな指導・助言を行う。

(3) 各校の課題解決のために、研究の進捗状況に合わせて、計画的に指導・助言を行い、研究の成果が上がるよう支援する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	人権教育・啓発と平和の推進（205）		
基本事業	人権教育の推進（2051）		
事業名	学校教育における人権教育の推進事業		
予算額	126,920円	決算額	146,500円
1 事業概要			
<p>学校の教育活動全体を通じて、主体的に人権課題を解決しようとする子供たちを育成するため、教職員の研修を実施し、各学校の人権教育推進体制の充実を図った。</p>			
2 事業実績			
<p>(1) 各学校における人権教育推進体制の充実</p> <p>(2) 人権作文・人権標語の募集と文集「かがやき」の発行（126,500円）</p> <p>(3) 教職員の研修（20,000円）</p> <p>ア 桶川市人権教育担当者研修会 会場 岩殿観音、埼玉ピースミュージアム 8月6日（水）講師 部落解放同盟北足立郡協議会書記長 藤田 源一 氏 参加者 11人（各校人権教育担当1人）</p> <p>イ 桶川市立小・中学校管理職等人権教育研修会 会場 川田谷公民館 2月3日（火）講師 部落解放同盟北足立郡協議会書記長 藤田 源一 氏 参加者 18人（各校教頭及び教務主任）</p>			
3 上記2に対する評価			
<p>(1) 各学校における人権教育推進体制の充実 各学校で人権教育の全体計画を作成し、各教科等の年間計画に位置付けることができた。また、人権感覚育成プログラムについても年間計画に位置付け、実践された。さらに、児童虐待について、対応する組織が整備され、学校教育での推進体制の充実を図ることができた。</p> <p>(2) 人権作文・人権標語の募集と文集「かがやき」の発行 各学校で人権作文及び人権標語の取組を行い、児童生徒の人権意識の高揚を図ることができた。さらに、作品を選定し、人権作文の文集「かがやき」を発行し、児童生徒が良い作品に触れ、人権意識がさらに高まるよう各学校に配付し、活用を促した。</p> <p>(3) 教職員の研修 各学校において、校内研修で各種人権課題を取り上げ、人権感覚育成プログラムを活用して研修を実施した。また、各校の管理職及び人権教育担当者を対象とした市教委主催の研修会を実施し、同和問題についての教職員の理解を深めることができた。</p>			
4 27年度以降の取組			
<p>(1) 各種人権課題について、教職員研修を通して理解を深めるとともに、児童生徒の指導について先進事例等を活用した実践を推進する。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	主体的に行動できる能力を育てる環境教育事業		
予算額	0円	決算額	0円

1 事業概要

児童生徒が環境問題に気づき、環境を守ろうとする態度を育成するための環境教育を推進する。

2 事業実績

- (1) 各校において、環境教育の全体計画や年間指導計画を適切に作成し、指導の充実を図った。
- (2) 地域の自然環境や社会環境を生かして、学校ファームをはじめとして桶川ロータリークラブ主催の「ジャンボスイカコンテスト」や「学校緑のグリーンカーテン運動」など、地域や外部と連携しての学校緑化活動の推奨を行った。また、各小学校では、身近な環境を考える機会として、市環境センターや浄水場等を利用した校外学習を実施した。
- (3) 県の事業「エコライフDAY」に市内全小・中学校で取り組み、家庭と共同して二酸化炭素削減の意識を高めた。また、この結果は広報「おけがわ」に掲載し、市民の意識啓発も図っている。

平成26年度(夏・冬)	小学校(7校)	中学校(4校)	合計
人数(※)	8,720人	3,148人	11,868人
削減量	44,538kg	4,971kg	49,510kg

※人数は、延べ人数（保護者を含む）

3 上記2に対する評価

- (1) すべての学校で環境教育の全体計画・年間指導計画の作成がされており、児童生徒の実態を踏まえた指導が行われた。
- (2) 各教科、道徳、特別活動（郊外学習を含む）及び総合的な学習の時間と相互の関連を図る中で、児童生徒は身近な環境について問題意識をもって取り組むことができた。また、みどりの学校ファーム等の取組を通して、体験的な学習活動が実践された。
- (3) 学校を単位とした取組が多く、各学校で行われている実践について、その内容や方法、成果等を共通のものにする必要がある。また、各校の取組の工夫改善が必要であり、児童生徒の実態、地域の実態を考慮して、年間指導計画等の見直しや修正を図っていく必要がある。

4 27年度以降の取組

- (1) 環境教育担当者の連携を図るため、各校における取組内容の情報交換を行う機会を設定する。また、学校応援団等、外部の教育力を活用し、環境教育の充実を図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	情報活用能力の育成を図る情報教育の推進事業		
予算額	16,800,000円	決算額	16,792,013円

1 事業概要

学校におけるICTの活用を推進するため、教育計画に位置付け、学習指導方法や教材を工夫するとともに、タブレットPCの段階的導入等、諸条件の整備を行う。

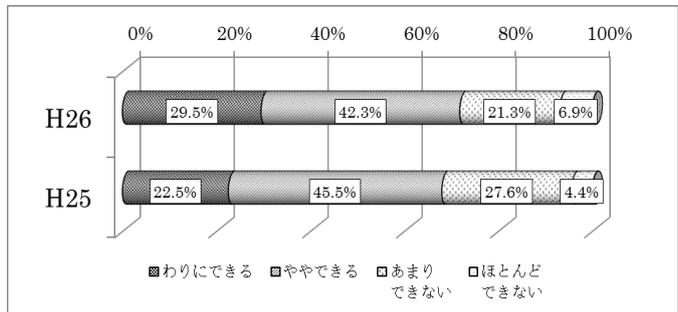
2 事業実績

- (1) 各校において全体計画を策定し、教科及び道德・特別活動・総合的な学習の時間等で実践した。
- (2) 児童生徒用のタブレットPCを、新たに2小学校に導入した。(403,040円)
加納小学校・日出谷小学校 各10台
- (3) 教育機器の効果的な利用と指導方法の工夫改善について、教員の指導力の向上を図るため、市教育研究会主催の研修会を実施した。その中で、外部指導者による講演とともに、各校の実践について情報交換を行った。参加教員11人(各校1人)

3 上記2に対する評価

- (1) 電子黒板・プロジェクタ・実物投影機について、理科や社会、算数・数学や外国語(外国語活動)等、それぞれの教科等の特性に応じた視覚効果のある活用で児童生徒の興味関心の高揚が図られた。
- (2) 児童生徒用のタブレットPCが、3校に整備されたが、校内無線LAN環境等がなく、主にPCルームにおいて使用されているが、普通教室等での利用が可能とする条件整備を進めるとともに、効果的な活用について研究していく必要がある。
- (3) 全国学力・学習状況調査の学校質問紙の結果では、「ICTを活用して、子供同士が教え合い学び合う学習や課題発見・解決型の学習指導の実施」について、「よく行った」「どちらかといえばよく行った」と回答した学校が、前年度より増加した。また、学校における教育の情報化の実態等に関する調査では、「学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるため

の、ICTを活用した効果的な提示」について、「わりにできる」「ややできる」と回答した割合が前年度よりわずかに増加したが、今後も、ICTを活用した授業の実践を積み重ね、効果的な活用について研究する必要がある。



4 27年度以降の取組

- (1) タブレットPCや教育用コンテンツを早期に導入し、他の視聴覚及び情報機器を活用した授業ができるよう、条件整備を進める。
- (2) ICTを活用した授業の実践について、各校の取組の情報を共有し、より効果的な活用を推進する。また、ICTの活用に関する教員の研修を実施し、教員の資質向上を図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	福祉社会の実現を目指すボランティア・福祉教育事業		
予算額	0円	決算額	0円
1 事業概要			
(1) 発達段階や地域の実態に応じたボランティア・福祉体験活動の推進を図る。			
(2) 施設体験活動を通して、教職員の社会福祉への関心と理解を深める。			
2 事業実績			
(1) 各校において、ボランティア・福祉教育の全体計画を策定し、教科及び道徳・特別活動・総合的な学習の時間等で実践した。			
また、中学校社会体験チャレンジ事業において、市内社会福祉施設の協力を得て、ボランティア体験に参加した。（6施設（事業所）：30人参加）			
さらに、市春のふれあいフェスタ等へ市内中学生が自主的に参加し、ボランティア活動を行った。			
(2) 初任者研修及び5年経験者研修の施設体験研修を、市内社会福祉施設で実施した。			
初任者研修教員 : 15人、5施設			
5年経験者研修教員 : 11人、3施設			
	施設名	初任者研修教員	5年経験者研修教員
	桶川さといも作業所	2人	3人
	ワークハウスさといも	3人	—
	桶川市社会福祉協議会	3人	—
	べに花の郷	4人	4人
	りんごの家	3人	4人
3 上記2に対する評価			
(1) 各校において、車いすやアイマスク等の体験活動、赤い羽根等の募金活動やベルマーク収集活動、社会福祉施設等への訪問・職場体験を通して、児童生徒が発達段階に応じて、ボランティア活動・福祉体験に触れる機会を設定し、社会福祉への関心と理解を深めることができた。			
(2) ボランティアや福祉教育についての教員の理解を深めるため、初任者研修及び5年経験者研修の施設体験研修を、市内社会福祉施設の協力を得て実施した。教員の社会福祉への関心と理解を深めることができた。			
4 27年度以降の取組			
(1) 各校での体験活動等を市内で情報共有し、発達段階に即したボランティア活動・福祉体験が充実するよう、全体計画の改善を働きかける。			
(2) 初任者研修及び5年経験者研修での施設体験研修を実施し、教員の資質向上を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	就学援助事業		
予算額	35,392,000円（学務課） 696,000円（学校支援課）	決算額	33,850,327円（学務課） 93,350円（学校支援課）

1 事業概要 <学務課・学校支援課>

- (1) 児童・生徒の義務教育に対しての機会均等を図るため、経済的に困難である保護者に対し、就学費用の援助を行う。また、特別支援教育の普及・奨励と入級児童・生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、特別支援教育就学奨励費を支援する。
- (2) 要保護、準要保護の認定がなされた世帯の児童生徒に対し、学校保健法で定められた疾病の医療費の援助を行う。

2 事業実績

(1) 平成26年度就学援助費執行状況 <学務課>

	要保護	準要保護	特別支援教育	学用品 (要・準要保護)	学校給食費 (準要保護)	特別支援教育 就学援助費
小学校	7人	218人	35人	5,069,631円	9,514,144円	2,125,873円
中学校	5人	152人	18人	8,269,064円	7,128,990円	1,742,625円

(2) 平成26年度医療費補助執行状況 <学校支援課>

	要保護	要保護 件数	準要保護	準要保護 件数	金額
小学校	2人	2件	0人	0件	20,660円
中学校	1人	1件	2人	11件	72,690円

3 上記2に対する評価 <学務課・学校支援課>

- (1) 経済的に生活が困難な保護者に対し援助を行った。認定にあたっては現行の基準に基づき、所得だけではなく家庭状況や学校長、担任の所見等を考慮し適正に支給することができた。
- (2) 児童保護者への案内配付と併せ、広報、市HP等に事業広報と申請促進を図ることができた。
- (3) 医療受給者に対して適正に医療費の援助を行うことができた。また、学校、医療機関などと密な連携をとり適正に事務処理を行うことができた。

4 27年度以降の取組 <学務課・学校支援課>

- (1) 社会状況の変化に柔軟に対応した支給を行えるように予算の確保を行っていく。
- (2) 就学援助事業を周知し、申請促進を図る。
- (3) 認定にあたっては、十分精査をしていく。
- (4) 学校事務担当者の事務処理上の取扱いについて問題が生じないように、周知徹底を図るとともに、迅速かつ適正な事務処理を継続していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校評議員会の設置事業		
予算額	369,000円	決算額	348,400円
1 事業概要			
<p>学校、家庭、地域が連携協力しながら一体となって子供の健やかな成長を担っていくため、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する観点から、学校評議員を委嘱した。</p>			
2 事業実績			
<p>学校評議員とは、教育活動の実施、学校と地域社会の連携の推進等、校長の行う学校運営に関し意見を述べ、又は助言を行う者である。</p> <p>各小・中学校の学校評議員を教育委員会が委嘱した。各学校では、学校評議員会を開催し、学校運営等について貴重な意見や助言をいただいた。</p> <p>委員数：5人（8校）、4人（3校）計52人 <謝金 6,700円×52人=348,400円></p> <p>開催回数：3回（9校）、4回（2校）</p> <p>主な内容：<説明・見学>「学校概要説明」「学校評議員制度の説明」 「授業・行事参観」「施設設備見学」「給食試食」等 <意見交換>「学校アンケート」「教育活動を振り返って」 「児童生徒の状況」「学力テストの結果について」 「安全について」「入試について」等</p>			
3 上記2に対する評価			
<p>(1) 各学校において学校評議員会を開催し、授業や行事の様子や施設設備を実際に見た上で、客観的な意見や助言をいただいている。評議員からの声を学校運営に反映した結果、あいさつがよくできる学校、学力向上に向けた取組の充実、学校応援団の活性化などにつながっている。</p> <p>(2) 学校評議員の方からの建設的な意見や助言を伝えることにより、教職員の意識が高まるとともに、地域との連携強化につながった。</p> <p>(3) 学校評議員の方々から出された意見・助言は学校職員には気づかない内容もあり、学校運営のより良い改善に役立つ有効な取組となっている。</p>			
4 27年度以降の取組			
<p>(1) 各校における学校評議員会の開催状況や内容、成果や課題を集約し、各校へ情報提供することで、より良い評議員会となるよう支援していく。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校関係者評価委員会の設置事業		
予算額	132,000円	決算額	68,000円
1 業務概要			
<p>学校が行う自己評価の客観性及び透明性を高め、教育活動その他学校運営の改善をするために学校関係者評価委員会委員を委嘱した。</p>			
2 事業実績			
<p>学校関係者評価委員会は、学校が行う自己評価の結果を評価することを通じて、学校の自己評価の客観性・透明性を高めるために組織されている。また、学校・家庭・地域が学校運営の現状と課題について共通理解を深め、相互の連携を促し、学校運営の改善を促進する役目も担っている。</p> <p>委員数：8人（6校）、7人（2校）、6人（3校）計80人</p> <p>＜謝金 4,000円×17人＝68,000円＞</p> <p>※謝金対象者は学校評議員を兼務、接続している学校の職員を除く。</p> <p>活動回数：2回（1校）、3回（8校）、4回（2校）</p> <p>主な内容：学校の教育活動視察、学校自己評価の報告を受けての協議 学校評価結果報告の作成</p>			
3 上記2に対する評価			
<p>(1) 学校関係者評価制度が各校において定着し、学校の自己評価に対する妥当性、客観性、透明性は高まってきている。委員からは、自校の取組に対して高い評価をいただいたことで、学校として励まされ、教職員の意欲の向上にもつながっている。</p> <p>(2) 学校関係者評価委員会で、委員から評価や、建設的な意見や助言をいただくことにより、各学校が自らの教育活動やその他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図っている。学力テストの分析やいじめ防止に係る取組について、教職員とは違った立場から意見をいただき、学校としても参考になっている。</p> <p>(3) 学校の説明責任として、学校評価の実施・結果の公表を行うことにより、保護者・地域住民からの理解と信頼が高まり、家庭・地域との連携が強化されている。</p>			
4 27年度以降の取組			
<p>(1) 学校の自己評価をさらに活性化し、評価結果の妥当性を関係者評価委員会で協議していく。</p> <p>(2) 各学校の学校評価の結果に応じて、他課と連携し学校に対する支援や環境整備等の改善措置を講じていく。</p> <p>(3) 各学校に対して学校だよりや報告書、学校のホームページを使っての学校評価の公表に係る工夫を働きかけ、家庭や地域住民に対する説明責任を果たし、一層の連携強化を図る。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	教職員の資質・能力の向上推進事業		
予算額	50,000円	決算額	2,010円
1 事業概要			
教職員の資質・能力の向上を図るため、人事評価や各種研修会、教員免許更新確認を行った。			
2 事業実績			
(1) 教職員人事評価			
(2) 研修会の開催			
ア 評価者研修会			
イ 夏季学校経営・運営研究協議会			
ウ 臨時的任用教職員研修会			
(3) 教員免許更新対象者の更新講習受講及び、免許更新確認			
3 上記2に対する評価			
(1) 教職員人事評価の実施			
評価者である校長・教頭が教職員に自己評価シートに基づき計画的に面談（当初・中間・最終）を行った。各小中学校では個々の教職員の指導力、学校力を高めるための具体的な取組が実施できた。			
(2) 研修会の開催			
ア 評価者研修会では、講義、事例に基づく演習・協議を行い、管理職の公平な人事評価につながった。			
イ 夏季学校経営・運営研究協議会において講演会や協議会により管理職の学校経営力・運営力の向上を図ることができた。			
ウ 臨時的任用教員を対象に服務面、指導面の研修会を実施した。特別支援教育の観点を取り入れた講習を行い、教職員の視野を広げることができた。			
(3) 教員免許更新対象者の更新講習受講確認			
教員免許更新対象者の把握と更新講習の受講確認、修了確認申請に係る事務を確実に行うことができた。			
4 27年度以降の取組			
(1) 新しい評価制度の導入、周知			
(2) 各研修会のさらなる充実			
(3) 教員免許更新講習者の確実な更新確認			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	教職員の管理業務		
予算額	1,516,000円	決算額	1,068,780円

1 事業概要

桶川市立小・中学校教職員の事故防止、及び、市費対応に係る臨時的任用教職員の配置

2 事業実績

(1) 教職員事故発生件数

	件数 (件)
体 罰	0
酒酔い運転及び酒気帯び運転での交通事故	0
わいせつ行為等（セクハラを含む）	0
その他・非違行為等	0

(2) 欠員補充に係る臨時的任用教職員の配置状況

	欠員補充者 (人)	市費負担日数 (日)	市費負担費用 (円)
小 学 校	11	91	689,780
中 学 校	4	26	197,080
合 計	15	117	886,860

(3) 病休等に係る臨時的任用教職員の配置状況

	病休者数(人) ※8日以上	代替者数(人)	市費負担(日)	市費負担費用(円)
小 学 校	4	3	11	83,380
中 学 校	3	2	13	98,540
合 計	7	5	24	181,920

3 上記2に対する評価

- (1) 倫理確立委員会の充実等、服務規律を徹底することで教職員事故の防止に努めることができた。
- (2) 学校との情報共有や南部教育事務所、近隣市教委との連携により、学校運営に支障をきたすことなく、教職員を配置することができた。
- (3) 平成26年度は、病休等に係る臨時的任用教職員が平成25年度に比べ1名減少した。

4 27年度以降の取組

- (1) 各学校における教職員の服務規律を徹底することで教職員事故の防止に努めていく。
- (2) 臨時的任用教職員の確保については、桶川市の広報誌やホームページへ募集記事を掲載したり、南部教育事務所や近隣市町教委と連携を図ったりしていく。
- (3) 各校の教職員の勤務状況（特に健康面）を把握し、病休者等への対応を迅速に行い、学校運営を円滑に行うことができるよう支援する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	PTAリーダー研修会		
予算額	25,000円	決算額	0円
1 事業概要			
<p>小・中学校PTA役員等を対象に、各小・中学校PTA活動の促進及びPTA家庭教育学級の企画運営方法や家庭教育のあり方等について研修を行った。</p>			
2 事業実績			
<p>PTAリーダー研修会を以下のとおり開催した。</p> <p>開催日：平成26年5月29日（木）</p> <p>会 場：桶川東公民館 大会議室</p> <p>テーマ：「情報セキュリティ講演」</p> <p>講 師：埼玉県警察本部サイバー犯罪対策課 奥秋 茂人氏</p> <p>参加者：43人</p>			
	24年度	25年度	26年度
参加者数	52人	43人	43人
3 上記2に対する評価			
<p>(1) PTA活動の促進と役員の意欲づけについて</p> <p>近年、社会問題化しているインターネットに絡むトラブルについて、「現状」や「子供が犯罪に巻き込まれた際に親として何が出来るか」等の知識が得られ、各学校のPTAリーダーとしての資質の向上につながった。</p> <p>(2) 研修会の運営・内容について</p> <p>運営については、滞りなく実施できた。今後も今日的な親の悩みに応えられるよう、研修会を実施していく。</p>			
4 27年度以降の取組			
<p>(1) 講師の選定について、関係機関の情報等を活用し、本事業のねらい「子供たちの健やかな成長を願い、健康で心豊かな家庭づくりを進めること」が達成できるよう、さらに工夫をしていく。</p> <p>(2) 参加者数については、昨年度と同数であった。今後、各学校への働きかけをさらに促進し、50人以上とする参加者の目標を達成していく。</p> <p>(3) 今日的な親の悩みに応えられるような研修内容としていく。また、演習活動を盛り込んだ参加型研修会についても検討していく。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（2011）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2012）		
事業名	PTA家庭教育講演会		
予算額	108,000円	決算額	100,000円
1 事業概要			
<p>小・中・高校のPTAが連携し家庭教育の充実を図るため、桶川市PTA連合会と高等学校PTAとの共催で、PTA家庭教育講演会を開催した。</p>			
2 事業実績			
<p>PTA家庭教育講演会『手をつなごうPTAべに花講演会』を開催した。 開催日・会場：平成27年1月17日（土） 桶川市民ホール 講演会：テーマ「落語と子育てを語る」 内容：三遊亭遊馬氏(落語家)の講演、桶川高校・加納中学校吹奏楽部による演奏、桶川西高校科学部による「ハートフル桶西水族館等の活動発表」 対象者：小・中学校PTA会員、桶川高校・桶川西高校PTA会員、一般市民 参加者数：約400人 その他：講演と併せて、東日本大震災義援金を受付けた。</p>			
3 上記2に対する評価			
<p>(1) 家庭教育力の向上と青少年の健全育成について 今年度も、より幅広い年齢層の子供たちを育てるという趣旨で、教育委員会と市PTA連合会、桶川高校PTA、桶川西高校PTAとの共催で行った。このことにより、小・中・高のPTAが連携し、大変有意義な事業となった。また、幅広い保護者の意識の向上と教養を深めることができた。</p> <p>(2) 講演会の準備、運営、内容について 事前の準備会議より、テーマ、講師の人選、予算の使途、役割分担等、前年度の反省をもとに活発な意見交換がなされた。 講演会については、地域の人材を活用するという点を講師の選定の上で考慮した。また、桶川高校と加納中学校の吹奏楽部の演奏に加え、桶川西高校科学部による活動発表を取り入れたことより、多くの参加者があり、本年度も共催の意義は達せられた。</p>			
4 27年度以降の取組			
<p>(1) 本事業は、家庭が子供の教育に対する責任を自覚し、本来果たすべき役割を見つめなおす機会をつくることを目的に開催されている。平成21年度より、教委と市PTA連に桶川高校PTAを加え、実行委員会形式となり、24年度からは桶川西高校PTAが加わった。講師の選定や当日の運営方法、予算の効果的な運用等について、準備会議等で協議するようになった。今後も参加者の家庭での教育の実践に資するよう適時見直しを図り、実施していく。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	「親の学習」講座		
予算額	55,000円	決算額	50,000円

1 事業概要

より多くの保護者に、子育てやしつけ等の家庭教育のあり方を見つめ直してもらおうよう、就学时健康診断（小学校）と新入生保護者説明会（中学校）の実施日に合わせ、「親の学習」講座を行った。

2 事業実績

- (1) 小学校では、埼玉県家庭教育アドバイザーの永原敏明氏を指導者として、「早寝早起き 朝ごはん」や携帯電話使用の危険性などをテーマに家庭教育に関する学習を行った。参加者数は、合計で575人であった。
- (2) 中学校では、埼玉県家庭教育アドバイザーの永原敏明氏に加え、埼玉県ネットアドバイザーの藤本美紀氏の2人を指導者として、「携帯電話及びインターネットに潜む危険性」をテーマに、携帯ゲーム機、スマートフォンを使ったインターネット利用の危険性に関して講座を行った。参加者数は、合計613人であった。
- (3) 参加状況は、下表のとおりである。

小・中学校名	対象者数(人)	参加者数(人)	参加率(%)	市内小・中学校全体での 目標値(%)	
桶川小	111	109	98.2		
桶川西小	117	117	100.0		
加納小	63	62	98.4		
川田谷小	50	43	86.0		
桶川東小	115	115	100.0		
日出谷小	63	61	96.8		
朝日小	71	68	95.8		
小計	590	575	97.5		
桶川中	203	200	98.5		
桶川東中	175	150	85.7		
桶川西中	190	159	83.7		
加納中	122	104	85.2		
小計	690	613	88.8		
市内全体	1,280	1,188	92.8		80
(昨年度)	(1,297)	(1,217)	(93.8)		—

3 上記2に対する評価

- (1) 小学校での実施については、就学前教育の支援・充実というねらいを考えると、全保護者を対象に実施するのが適切である。したがって、ほとんどの新入児童及び保護者が参加する就学時健康診断の際に実施することにより、当初の目的を果たすことができた。各小学校にも協力を要請し、児童が保護者から離れて健康診断を受けている時間を活用し、家庭教育アドバイザーの講話を効果的に提供することができた。
- (2) 中学校での実施については、本年度も、中学校4校すべてにおいて学校説明会の前に講座を設定したことにより、高い参加率を維持できた。
- (3) 小・中学校全体の参加率は、目標値80%を上回る92.8%であった。

4 27年度以降の取組

- (1) 実施時期について、小学校では就学時検診時、中学校では入学説明会前での講座開催という形が定着しており、多くの参加者が見込めることから、27年度以降も実施していく。
- (2) 内容については、26年度も中学校の講座において、家庭教育アドバイザーとネットアドバイザーの2人講師体制で臨み、効果的な内容となったので、27年度以降も継続して実施する。
- (3) 今年度、「早寝 早起き 朝ごはん」や携帯電話の危険性など、今日的なテーマを設定したが、今後も必要に応じてテーマの検討、見直しを図っていく。

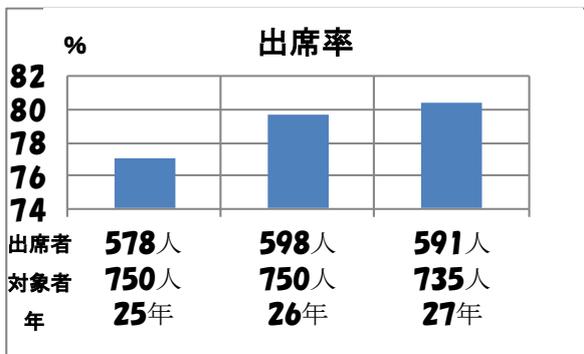
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	生きる力を育む活動の充実（2031）		
事業名	成人式典		
予算額	546,000円	決算額	512,772円

1 事業概要

「成人の日」に成人となったことを自覚する記念の日とし、新成人の新しい門出とともに祝福するとともに、将来の幸福を祈念するために、成人式典を実行委員会方式で実施した。

2 事業実績

開催日：平成27年1月12日（月） 成人の日
 開催場所：桶川市民ホール
 開催内容：第1部 式典、第2部 アトラクション



＜実行委員会＞実行委員は広報による公募や卒業中学校から推薦された新成人17人で構成され、成人式典の企画、案内状発送作業及び前日準備、当日の運営についても主体的に行った。
 （公募：9人 推薦：8人）

＜歳出の主なもの：消耗品等需用費（188,388円）、施設使用料（274,990円）＞

3 上記2に対する評価

- (1) 実行委員会について、今年度は実行委員17人のうち公募から9人応募があり、半数を上回った。各実行委員は実行委員長主導のもと、式典の企画、準備、当日の運営を主体的に行い、大きなトラブルなく式典を終えることができた。
- (2) 当日の実施状況は、新成人の出席率が7年振りに80%を上回った。
- (3) その他、新成人式研究会主催の「成人式大賞」（文部科学省後援）では平成21年から7年連続受賞となった。また、天候不良や当日の急な事故等に対応するため、マニュアルが作成されるとともに、スタッフが急なアクシデントに対応できるよう事前に十分な説明を行うことができた。

4 27年度以降の取組

- (1) 引き続き、実行委員会形式で開催していく。実行委員の応募方法は、広報による公募及び学校への推薦依頼とする。また、成人式典の周知についても、広報・ホームページ・案内状を活用していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事業名	放課後子供教室事業		
予算額	4,828,000円	決算額	4,791,556円

1 事業概要

子供たちが、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる安全かつ安心な居場所づくりを目的に「桶川市放課後子供教室」を開設した。

2 事業実績

- (1) 運営について、国が推進している「放課後子どもプラン」に基づき、桶川東小学校会議室及び日出谷小学校視聴覚室を実施場所とし、5月から3学期末まで「放課後子供教室」を実施した。
- (2) スタッフ（コーディネーター・学習アドバイザー・安全管理員・協力員）及び運営委員会（コーディネーター・学校長・PTA・自治会及び行政関係者）を設置した。

	参加児童数（人）	活動日数	スタッフ人数
桶川東小学校	36（28）	138日（129）	24人・6団体
日出谷小学校	37（31）	124日（135）	27人・6団体

※（ ）内は25年度実績

(3) 事業方針については、以下のとおり。

- ①交流の場を設けることにより、地域住民及び異なる学年との交流を支援する。
- ②体験の場を設けることにより、文化活動・体験活動・スポーツ活動等を支援する。
- ③学びの場を設けることにより、自主的な学習を支援する。

<歳出の主なものは：スタッフ謝礼等の報償費（4,238,330円）>

3 上記2に対する評価

- (1) スタッフと参加児童、参加児童同士、スタッフ同士の信頼関係が、年間の活動を通じて深めることができた。また、開室3年目を迎え、学校側の理解も徐々に得ることができている。
- (2) コーディネーターを中心としたスタッフ主体で実施し、開室3年目で軌道に乗ってきた。また、コーディネーターがスタッフ会議を運営するなど、スタッフ同士のコミュニケーションも図られるようになった。
- (3) アンケートを実施したところ、子供たちのみならず保護者からもスタッフが企画した事業内容について高い評価をいただいた。

4 27年度以降の取組

- (1) 課題としては、スタッフの人選、募集方法のほか、新規開設学校長との調整があげられる。また、未実施3校については、27年度に施設面、人員配置について取組みを行い、28年度に新規2校の開設を目指す。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事業名	青少年健全育成事業		
予算額	2,366,000円	決算額	2,277,024円
1 事業概要			
<p>青少年育成活動を推進するために、以下の3事業を行った。</p> <p>(1) 青少年問題協議会の開催</p> <p>(2) 青少年健全育成市民会議の推進</p> <p>(3) 青少年育成団体への支援</p>			
2 事業実績			
<p>青少年健全育成のため、各団体を主体として、次のような事業を実施した。</p> <p>(1) 青少年問題協議会の開催</p> <p>ア 第1回：平成26年7月18日（金） 内容：①桶川市青少年健全育成指針等について ②青少年の現状についての意見、情報交換</p> <p>イ 第2回：平成27年2月20日（金） 内容：①桶川市青少年健全育成に向けての取組み ②青少年の現状についての意見、情報交換</p> <p>(2) 青少年健全育成市民会議の推進</p> <p>ア 総会・講演会の実施（5月17日、桶川東公民館で開催） 「少年非行の現状と豊かな心を育む生活」をテーマに、講師に桑原巡氏を迎え、講演会を実施。参加者数79人（前年度86人）。</p> <p>イ 私たちの主張作文コンクール、家庭の日ポスターコンクールを実施</p> <p>ウ 市民大会の実施（11月22日、桶川東公民館で開催） 青少年育成埼玉県民会議より補助金を受けて、青少年育成功労賞の表彰、作文・ポスターコンクール入賞者の表彰及び講師に関根トミ子氏を迎え、「子どもたちの健全育成のための大人の役割とあり方～たくましく生きる力を培ってあげるために～」をテーマとする講演会を行った。 参加者数160人（前年度179人）。</p> <p>エ 市民会議広報「ひまわり」の発行（1月1日発行 全戸配布）</p> <p>オ 親子ふれあいウォークの実施 第1回<10/11>加納地区参加者：64人 第2回<10/25>川田谷地区参加者：87人</p> <p>カ おけがわ春のふれあいフェスタへの参画（5月11日、駅西口公園で開催）</p> <p>キ 子ども教室「あそびっこ」の実施（朝日小学校11回 参加者数合計298人）</p> <p>ク 巡回指導の実施 延べ175人（前年度213人）。</p>			

(3) 青少年関係団体への支援

各青少年関係団体や事業に、補助金等の交付や公共施設の利用の支援を行った。

<補助金等交付実績>

件名	金額
桶川市青少年健全育成市民会議交付金	672,000円
桶川市子ども会育成連絡協議会補助金	680,000円
青少年相談員協議会補助金	154,000円
おけがわ春のふれあいフェスタ実行委員会交付金	500,000円

3 上記2に対する評価

- (1) 青少年問題協議会の活動については、参加委員各々の立場から現状報告を行い、今日的な課題である子供のスマートフォン、ゲームの利用、子供の問題行動や不登校などについて活発な意見交換と情報交換が行われた。これらの審議を通じて、青少年健全育成の充実と市民会議との連携が図られた。
- (2) 青少年健全育成市民会議については、総会及び市民大会の講演会を今日的なテーマとし、参加者にとって興味深いものとなった。しかしながら、学校を通じて積極的なPRを行ったが、参加者数は160人と目標値の200人を下回った。作文・ポスターコンクールは、応募作品数が学校ごとに大きな差があり、より周知をする必要がある。巡回指導の実施については、目標値の200人を上回ることができなかったが、175人に参加があった。
- (3) 青少年育成団体への支援については、財政的な支援を行うことで、青少年健全育成の推進が図られている。また、補助金等も効果的かつ適正に執行されている。

4 27年度以降の取組

- (1) 青少年問題協議会については、各委員から現状報告を行ってもらい、情報の共有化を図る。また、協議会で得られた情報を青少年健全育成市民会議の活動に反映できるよう、更なる連携を深めていく。
- (2) 青少年健全育成市民会議については、市民大会への参加者が目標値の200人となるよう、各種事業について、PRの充実を図るとともに、時代のニーズに即した事業展開を行う。
- (3) 青少年育成団体への支援については、子ども会参加者及び青少年相談員加入者数がほぼ横ばいの状況であるが、全体の人数が減っていく中、積極的に事業ができるよう財政支援を行い、青少年育成団体の活動を促進していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	生涯学習情報の提供		
予算額	30,000円	決算額	22,138円
1 事業概要			
生涯学習に係る情報を広く市民に知っていただくため、生涯学習関連の情報紙を発行するとともに、ホームページ上にも各種情報の掲載を行った。			
2 事業実績			
(1) 生涯学習情報の提供：一般市民及び児童生徒向けに以下の情報提供を行った。			
ア 情報紙「生涯学習ガイド」の発行 市内で開催される講座等の情報を掲載した情報紙「生涯学習ガイド」を年3回（4月195部、8月210部、12月210部）発行し、公民館等の公共施設に設置、市民の学習機会について周知を行った。また、同様の内容について、市ホームページへの掲載を行った。			
イ 児童・生徒向け学習情報紙の発行 夏休みに開催される、主に小・中学生を対象とした催し物を紹介する「今度は何をしようかな？」を7月に発行し、全児童・生徒に配布した。			
3 上記2に対する評価			
(1) 生涯学習情報の提供 ア、イとも各課・施設の協力の下、幅広く情報を収集し、市民に対し情報提供を行うことができた。			
4 27年度以降の取組			
(1) 生涯学習情報の提供については、今後も各課・施設と連携を図り、幅広く情報を収集し、内容の濃い情報誌を作成していく。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	市民大学の開催		
予算額	223,000円	決算額	197,538円

1 事業概要

多様な学習機会を提供するため、児童及び成人を対象とする以下の事業を実施した。

- (1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設
- (2) 「桶川市平成市民大学」の開設

2 事業実績

(1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設（全5回）

官学連携事業として、聖学院大学、日本薬科大学、上尾市教育委員会、伊奈町教育委員会、桶川市教育委員会からなる「子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員会」を組織し、違う学校、学年の子供たちが、大学のキャンパスや企業などで学ぶ「子どものための大学」を実施した。

対象者：上尾市・伊奈町・桶川市在住の小学4～6年生

参加者：21/64人（桶川市）

回	開催日・会場	内 容	講師など
1	6/14 ＜聖学院大学＞	入学式・ハンドベルミニコンサート 「西洋音楽（クラシック音楽）を育てたのは？」 ～キリスト教&教会が育んだ音楽と楽器の探検物語～	氏家理恵教授 相川徳孝准教授
2	6/21 ＜聖学院大学＞	「聞いてみよう！世界の父の日と母の日」 ～父の日、母の日って世界共通？色々な国の先輩大学生に聞いてみよう！～	氏家理恵教授
3	7/5 ＜べに花ふるさと館・圏央道工事現場＞	「潜入！最新☆高速道路のひみつ」 ～日本の道路を支える高速道路の最新技術をのぞいてみよう！～	国土交通省関東整備局大宮国道事務所
4	9/13 ＜日本薬科大学＞	「実験！ムラサキキャベツの色の不思議」 ～野菜の色の出来る仕組みを調べてみよう！～	野澤直美教授
5	10/4 ＜日本薬科大学＞	「挑戦！子ども薬剤師」 ～今日から見習い薬剤師!?薬剤師ってどんな仕事？～ 発表会・修了式	藤原邦彦教授

(2) 「桶川市平成市民大学」の開設（9回）

生涯学習の一環として、より豊かな教養を身につけ、自らの生きがいを充実していく場として、事業を実施した。

テーマ：「豊かな教養を身につけよう」

参加者数：92人（前年度85人）

参加延人数：775人（前年度612人）

回	開催日	内 容	講師など
1	8/26	開講式 講義「桶川市の市政について」	桶川市長 小野 克典氏
2	9/4	講義 「石に記録された地球環境の変化」	立正大学教授 川野 良信氏
3	9/25	講義 「スマートライフ」環境講座	県環境教育アシスタント 金成 眞明氏
4	10/9	講義 「江戸の物価と貨幣」	立正大学名誉教授 北原 進氏
5	10/23	講義 「健康食品の正しい使い方」	日本薬科大学准教授 中島 孝則氏
6	11/6	桶川市内歴史散歩 川田谷地区	桶川市ガイドボラン ティアの会
7	11/20	講義 「江戸庶民の旅と歩行」	東洋大学准教授 谷釜 尋徳氏
8	12/11	講義 「お屠蘇とその調整」	日本薬科大学講師 糸数 七重氏
9	12/25	閉講式	

<歳出の主なもの：負担金（50,000円）、平成市民大学講師等謝礼（140,000円）

3 上記2に対する評価

(1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」については、「はてな学」、「生き方学」、「ふるさと学」の3分野について、専門家からのわかりやすい講義の提供に努めるとともに、今年度は桶川市が2市1町持ち回りの講座担当であったため、大宮国道事務所に協力を依頼し、高速道路の見学を行ったところ、好評を博した。また、他市町の子供たち間の交流を図ることができた。

(2) 平成市民大学については、幅広い分野の講座を実施するとともに、講師に大学教授などを招き、内容の向上に努めたため、受講生の理解を深めることができた。さらに、定員（50人）を大幅に上回る応募者に対応することで、より多くの方に学習機会の提供を行うことができた。

4 27年度以降の取組

(1)・(2)とも内容の更なる充実を図るとともに、学習機会の提供に努めていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	職員出前講座		
予算額	0円	決算額	0円

1 事業概要

市民の学習環境の向上を図りつつ、市民と行政との交流を深めることを目的に、市職員が各部署の分掌事務に基づく学習メニューを用意し、市民の要請により講師を派遣して講座を開催した。

2 事業実績

実施回数：9回
 参加延人数：686人
 <実施内容>

	24年度	25年度	26年度
回数	7回	16回	9回
延人数	970人	1,064人	686人

	担当課	講座名	利用団体	参加人数
1	リサイクル推進課	みんなでつくる循環型社会	中学校	170
2	産業観光課	べに花って、な・あ・に？	中学校	170
3	生涯学習文化財課	桶川の歴史と民俗	中学校	170
4	産業観光課	べに花って、な・あ・に？	小学校	75
5	生涯学習文化財課	桶川の歴史と文化を知る講座	一般	17
6	健康増進課	生活習慣病予防について	一般	15
7	高齢介護課	聞いてみたい介護保険	一般	25
8	高齢介護課	聞いてみたい介護保険	一般	12
9	保育課	親子でクリスマス	学童・一般	32

3 上記2に対する評価

(1) 職員出前講座メニューは28講座（前年度26講座）があり、そのうち上記のメニューが利用された。広報やホームページへの掲載により出前講座の周知を進めたが、平成25年度実績に比べて利用は減少している。しかしながら、自治会によっては、毎年職員出前講座を活用している団体があり、リピーター率が増加している。

4 27年度以降の取組

- (1) 問い合わせ時の市民ニーズに応じて、メニューに掲載されている講座以外にも柔軟に対応し、講座数を伸ばしていく。また、他課に職員出前講座の趣旨の理解を深めてもらい、講座の内容を充実させる。
- (2) 周知方法について、自治会への回覧や小・中学校でも活用が図られるよう校長会などを通じてPRに努める。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	パソコン講習とサポート事業		
予算額	1,672,000円	決算額	1,409,595円
1 事業概要			
<p>パソコン技術の向上を目的として、ボランティア団体である桶川ITネットとの協働事業として、市民を対象とするパソコン講座を行った。また、パソコンサポートセンターを開設し、市民からの疑問や相談に応じた。なお、桶川東公民館3階のパソコンルームのリニューアルを行った。</p>			
2 事業実績			
(1) パソコン講習の実施状況は、下表のとおりである。			
		受講者数（定員）	
講座名			
ワード講座	（3コース）	33人（各回20人、計60人）	
初心者講座	（2コース）	30人（各回20人、計40人）	
エクセル講座	（3コース）	59人（各回20人、計60人）	
年賀状作成講座	（3コース）	40人（各回20人、計60人）	
合計		162人	
(2) パソコンサポートセンターについては、パソコンの活用に関する疑問や相談に応じるため、毎週金曜日に桶川東公民館3階パソコンルームにおいて開設した。全48回開催し、利用者数は493人に上った。（前年度48回、392人、加納集会所） ＜歳出の主なもの：パソコンリース料（934,410円）、講師等謝礼（309,600円）＞			
3 上記2に対する評価			
(1) リニューアルに伴い、新しくパソコンのリース契約を締結するとともに、スクリーンやマイクを使用できるようにし、より良いパソコンルーム作りに努めた。また、25年度は初心者講座、年賀状講座の2講座のみであったが、26年度はワード講座、エクセル講座も実施した。このことにより全受講者数は増加につながったが、定員割れの講座がみられた。			
(2) パソコンサポートセンターの開設については、リニューアル効果と市内イベントでチラシを配布するなど、新規利用者を開拓できるよう努めたことにより、前年より参加者が増加した。			
4 27年度以降の取組			
(1) パソコン講習について			
①27年度は5月から講座を開始しているが、入学期シーズンに合わせた4月開講を28年度以降に試行してみる。			
②講習内容の工夫・改善及びその他講座内容を検討し、受講者数の増加を目指す。			
③桶川東公民館にチラシを設置するなど、PR方法の検討を行う。			
(2) サポートセンターについては、引き続き、様々な機会をとらえPRに努める。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	文芸桶川発行		
予算額	498,000円	決算額	401,400円
1 事業概要			
文芸活動を通じて豊かな人間性を養い、市民文化の創造と地域文化の普及向上に資することを目的として「文芸桶川」を発行した。			
2 事業実績			
以下のとおり、「文芸桶川」第35号を発行した。			
(1) 発行部数等			
①発行部数：300部			
②無償配布部数：執筆者・市内公共施設・学校等：205部			
③有償頒布部数：16部（頒布価格：1冊800円 一般部門の応募料：400円）			
(2) 編集委員会			
各団体から選ばれた計6人の委員による編集委員会を設置し、編集及び校正等を行った。（桶川市文化団体連合会文学会 2人、桶川市図書館実作協議会 1人、桶川市俳句連盟 1人、短歌関係団体 1人、桶川市教育研究会 1人）			
(3) 掲載作品分野及び掲載作品数（掲載者数）			
一般部門の応募作品は全て掲載し、ジュニア部門は学校と編集委員会で選定した作品を掲載した。			
○一般部門の掲載作品数(掲載者数)			
小説2編（2人）、童話1編（1人）、紀行1編（1人）、随筆10編（10人）			
評論2編（2人）、詩3編（3人）、短歌105首（21人）、俳句136句（28人）			
川柳20句（4人）、連句1巻（1人）			
○ジュニア部門の掲載作品数（掲載者数）			
小説5編（5人）、童話1編（1人）、紀行1編（1人）、詩2編（2人）			
短歌11首（11人）、俳句31句（31人）			
○その他			
挿絵4点（3人）			
	24年度	25年度	26年度
作品点数	288点	334点	336点
応募者数	112人	130人	127人
掲載作品数は336点に上り、一般の応募点数が前年度より微増となった。			
<歳出の主なもの：印刷製本費（356,400円）、編集委員謝礼（45,000円）>			
4 27年度以降の取組			
(1) 作品募集について、市広報や公共施設に応募用紙を設置し、前年度執筆者にも募集をする。ジュニア部門については学校を通じて中学生から作品を募集する。			
(2) 作品頒布について、市広報やホームページ、市内公共施設窓口に設置するなど、周知を行う。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	学習ボランティア推進事業		
予算額	88,000円	決算額	46,662円
1 事業概要	<p>学習ボランティアとして市民の学習活動を支援できる人材を「桶川み・ら・い塾 一人財バンク」に登録し、活用を図った。</p>		
2 事業実績	<p>(1) 人財バンク事業の推進</p> <p>ア 登録状況：登録者数 38 人（前年度 34 人）、登録団体数 11 団体（同 11 団体） ※芸術文化、スポーツ・レクリエーション、家庭生活・趣味、教育等一般、人文・社会科学、自然科学、市民生活・国際関係などの幅広い分野に亘る。</p> <p>イ 平成 26 年度の利用状況は、健康管理活動の体験＜一般＞、ポルトガル刺繍＜一般＞、茶道＜一般＞の計 4 件となった（前年度 3 件）。</p> <p>ウ 周知活動として、広報やホームページへ掲載するとともに、8 月 30～31 日に「人財バンク実演展示会」を桶川市民ホール（ギャラリー、プチホール）において実施した。参加団体は 9 団体 6 人、来場者数は約 130 人。</p>		
3 上記 2 に対する評価	<p>(1) 人財バンク事業は、利用件数が減少傾向になっている。</p>		
4 27年度以降の取組	<p>(1) 人財バンク利用件数を増加させるため、周知の徹底を図っていく。特に人財バンク実演展示会については、開催時期の調整や他の事業との同時開催を検討する。また、人財バンクの活用について、市広報を通じて周知していきたい。</p>		

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	生涯学習推進体制の整備		
予算額	3,766,000円	決算額	3,487,459円

1 事業概要

生涯学習推進体制整備のため、以下（1）～（3）の会議を開催し、市内の生涯学習・社会教育の現状と課題について意見をいただいた。また、社会教育指導員を配置することで特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成に寄与した。

- （1）桶川市生涯学習推進会議の開催
- （2）社会教育委員会会議の開催
- （3）社会教育関係委員合同研修会の開催
- （4）社会教育指導員の設置

2 事業実績**（1）桶川市生涯学習推進会議の開催**

ア 第1回 平成26年7月28日（月）

内 容：平成26年度の主な生涯学習推進事業について（計画）

イ 第2回 平成26年12月3日（水）

内 容：平成26年度の主な生涯学習推進事業について（途中報告）

（2）社会教育委員会会議の開催

ア 第1回 平成26年5月27日（火）

内 容：①平成25年度事業報告について

②平成26年度事業計画について

③平成25年度社会教育委員会会議活動報告及び平成26年度社会教育委員会会議活動計画について

④平成26年度社会教育関係補助金・交付金について

⑤「世代を通じた協働事業の在り方」について

イ 第2回 平成26年8月22日（金）

内 容：①人権教育実践報告会参加報告

②「世代を通じた協働事業の在り方」について

ウ 第3回 平成26年11月11日（火）

内 容：①「世代を通じた協働事業の在り方」について

（3）社会教育関係委員合同研修会の開催

開催日：平成27年2月16日（月）

テーマ：「世代を通じた協働の在り方」

講 師：埼玉県県民生活部共助社会づくり課主幹 浪江美穂氏

対 象：社会教育委員・公民館運営審議会委員・生涯学習推進会議委員

（4）社会教育指導員の設置

社会教育の特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成のため、2人に委嘱した。主に、桶川市PTA連合会の事務局、平成市民大学やふれあい学級の事業を担当した。

<歳出の主なもの：報酬費（3,249,600円）>

3 上記2に対する評価

- (1) 桶川市生涯学習推進会議の開催
生涯学習について総合的に審議し、生涯学習の推進に寄与した。
- (2) 社会教育委員会会議の開催
各委員が所属団体の現状や課題等について意見交換を行ったことにより、会議の内容が深まり、ボランティア活動の推進に向けた意識を深めることができた。
- (3) 社会教育関係委員合同研修会の開催
上記3つの委員会が共通のテーマをもとに研修に参加し、講師の話を聴くことにより併せて互いの課題や現状について情報交換を深めることができた。
- (4) 社会教育指導員の設置
社会教育についての高い専門性をもち、PTA 活動の支援や各種講座を開催した。

4 27年度以降の取組

- (1) 桶川市生涯学習推進会議の開催
会議を実施するとともに生涯学習の推進について審議していく。
- (2) 社会教育委員会会議の開催
「社会教育の普及・振興」について審議していく。今年度においては、「世代を通じた協働事業の在り方」についてまとめる。
- (3) 社会教育関係委員合同研修会の開催
3委員会合同の研修会を実施し、情報交換を深めていく。
- (4) 社会教育指導員の設置
社会教育について企画・立案をし、普及・振興を継続して行っていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	人権教育・啓発と平和の推進（205）		
基本事業	人権教育の推進（2051）		
事業名	人権教育の推進		
予算額	3,527,000円	決算額	3,391,244円

1 事業概要

桶川市人権教育基本方針の趣旨に基づき、社会教育、生涯学習の観点から市民の人権感覚の向上を目指し、人権教育の啓発と推進を行った。

2 事業実績

(1) 桶川市人権教育推進協議会事業の充実（啓発の推進・研修会の充実・啓発広報誌の発行について）について、以下のとおり開催した。

- ア 第1回 開催日：平成26年6月4日（水）
内 容：平成26年度の主な事業計画（企業対象人権問題研修会の参加者増加に向けての方策等）
- イ 第2回 開催日：平成27年2月12日（木）
内 容：平成26年度の主な事業報告（人権教育の啓発推進の現状等）

(2) 桶川市立集会所事業の充実

①成人学級講座は、年間延べ429人（目標値370人）の参加があった。同和問題をはじめとする今日的な人権課題をテーマにし、講師を招聘しての講話や効果的なDVDの視聴等、実践化に結びつく内容となった。

回	内容および講師	桶川集会所	加納集会所	参加者
1	DVD 視聴「一人ひとりの心は今！」	5/16(金)		82人
2	「部落差別と人権」	7/11(金)	7/10(木)	57人
3	「身のまわりの人権」	8/29(金)	8/28(月)	83人
4	「障がい者の人権」	10/24(金)	10/23(木)	46人
5	DVD 視聴「あした・きらりん」	11/7(金)		64人
6	DVD 視聴「私たちの声が聴こえますか」	2/13(金)		97人
参 加 者 計				429人

②文化講座は、下表のとおり実施した。

集会所	教室名	受講者数	参加延べ人数
加 納	書道教室	20人	460人
	編み物教室	20人	449人
桶 川	書道教室	16人	352人
	デコパージュ教室	10人	219人

③夏休み子供教室については、人権アニメの視聴、折り紙教室、習字教室を実施し、延べ参加人数は58人であった。

○集会所事業主要経費

項目	経費
文化講座講師謝礼	614,400円
集会所光熱水費	642,902円
集会所管理委託	1,293,000円
集会所清掃委託	465,739円
合計	3,016,041円

3 上記2に対する評価

(1) 桶川市人権教育推進協議会事業の充実

協議会では参加委員の意見交換が活発になり、推進に向けての具体策が多く出された。人権・男女共同参画課や人権擁護委員等の関係機関との連携を強化しながら、より一層の啓発を推進する必要がある。人権標語の応募者は、5,847人と25年度より47人減少した（児童・生徒数の減少が原因）。しかしながら、市民の人権感覚の向上への推進役として、委員の方々の意識を高めることができた。

(2) 桶川市立集会所事業の充実

代表者会議とともに実施した成人学級講座の参加者数は、前年度比において若干増加した。成人学級講座のみで実施した際は、参加者が少なかった。文化講座は、受講者数が26人に減少した。夏休み子供教室は、受講者数が24人に減少した。企業等対象の人権問題研修会の参加者数は、市内の企業を訪問し、参加の呼びかけを行うとともに実施の時期を県主催の研修会とずらしたが前年度より6人減少し23人となった。

4 27年度以降の取組

(1) 桶川市人権教育推進協議会、集会所事業ともに事業内容の大幅な変更はないが、同和問題をはじめとする様々な人権課題の早期解決を目指し、市民の人権感覚の向上への推進役として両事業に関わる方々の意識を高めていく。

(2) 企業等を対象とした人権問題研修会については、今日的な課題について、意欲化と実践化を図れる講師の選定を行い、企業への声かけの強化、実施時期の再検討を行い、新しい参加企業を増やすよう留意したい。また集会所文化講座は、参加者の意見を考慮しながら講座内容の見直しを図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	個性的な地域文化の活用（2063）		
事業名	文化財説明板設置事業		
予算額	2,138,400円	決算額	2,138,400円
1 事業概要	<p>文化財に関する情報提供を促進するため、文化財説明板の整備と改修を進めた。説明板が設置されていないものについては新設を、老朽化等で判読しづらくなっているものや破損しているものについては新しいものと交換した。</p>		
2 事業実績	<p>(1) 市指定文化財「樋詰の道しるべ」の説明板新設 (2) 県指定文化財「桶川宿本陣遺構」及び「明星院の大カヤ」の説明板交換 (3) 稲荷神社（市指定文化財「紅花商人寄進の石燈籠二基」「稲荷神社の力石」所在）及び多気比売神社（市指定文化財「多気比売神社の大椎」所在）の説明板交換 (4) 国登録有形文化財「武村旅館」の説明板交換</p>		
3 上記2に対する評価	<p>(1) 平成26年度は、計画通り6件の文化財について説明板を新設および交換することができた。これまで説明板がなかった1件の文化財に説明板を設置したことによって、見学者に対して情報提供を行うことができた。また、交換した説明板については、カラーで見やすいものに改め、記述内容もより簡単な文章とし、より一層わかりやすいものとなった。</p>		
4 27年度以降の取組	<p>(1) 当初、平成23年度から平成27年度までの5ヵ年計画で、3件ずつ合計15件の文化財説明板新設及び改修を予定していた。しかしながら、26年度に終了する社会資本整備総合交付金の事業期間に合わせ、3件を前倒しで設置することより事業が完了した。 現在、指定文化財を主とする35件に説明板が設置してあることから、今後の経年変化を踏まえて対応していく。</p>		

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財保存管理交付金及び指定文化財保存事業費補助金交付事業		
予算額	346,000円	決算額	337,850円

1 事業概要

市内に所在する個人所有の指定文化財の適切な保存を図るため、その管理者に対して当該文化財の管理又は維持に要する経費に対して「桶川市指定文化財保存管理交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。また、修繕等の経費に対して「桶川市文化財保存事業費補助金交付要綱」に基づき補助金を交付した。

2 事業実績

(1) 文化財の指定区分に従い、以下のとおり交付金を交付した。

国指定文化財	10,000円×1件	=	10,000円
県指定文化財	7,500円×5件	=	37,500円
市指定文化財	5,000円×25件	=	125,000円
合計			172,500円

<交付対象文化財>

区分	件数	種別	種類	名称
国指定文化財	1	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像（泉福寺）
県指定文化財	1	有形	建造物	桶川宿本陣遺構
	2	記念物	史跡	熊野神社古墳
	3	記念物	天然記念物	倉田の大カヤ（明星院）
	4	記念物	天然記念物	光照寺コウヤマキ
	5	旧跡	旧跡	梵語学者盛典の墓（知足院）
市指定文化財	1	有形	建造物	諏訪神社本殿
	2	有形	建造物	泉福寺山門並びに石造仁王像一棟二軀
	3	有形	建造物	矢部家住宅
	4	有形	工芸品	泉福寺の銅製釣灯籠
	5	有形	歴史資料	天満神社の木製の額（氷川天満神社）
	6	有形	古文書	旧小針領家村松川家文書
	7	有形	古文書	旧五町台村渋谷家文書
	8	有形	古文書	旧倉田村荒井家文書
	9	有形	古文書	旧倉田村明星院領星野家文書
	10	有形	歴史資料	紅花商人寄進の石燈籠二基
	11	民俗	有形民俗	稻荷神社の力石
	12	有形	歴史資料	川辺の板石塔婆
	13	民俗	有形民俗	天神道の道しるべ
	14	民俗	有形民俗	樋詰の道しるべ
	15	民俗	有形民俗	名号塔兼ねた道しるべ

16	民俗	有形民俗	小針領家のささら獅子舞用具一式
17	記念物	史跡	原山古墳群
18	記念物	史跡	原山古墳群
19	記念物	史跡	木戸跡（上）
20	記念物	史跡	木戸跡（下）
21	記念物	史跡	加納城址
22	記念物	天然記念物	シイガシ
23	記念物	天然記念物	多気比売神社の大シイ
24	記念物	天然記念物	ムクロジ
25	記念物	天然記念物	普門寺のしだれ桜

(2) 補助金交付要綱に従い、以下のとおり補助金を交付した。

<交付対象文化財>

区 分	件数	種別	種類	名 称
市指定文化財	1	有 形	建造物	矢部家住宅

○住居棟外壁改修工事および住居棟2階和室壁補修工事

- ・総事業費 330,700 円
- ・補助率 1/2
- ・補助金 165,350 円

なお、25年度は0件、24年度は2件1,030,345円

3 上記2に対する評価

- (1) 交付事業を通して文化財保護と保存についての意識啓発を図るとともに、所有者の協力を得て指定文化財を適切に管理することができた。また、交付金については、予定していた全31件の指定文化財に対して交付することができた。なお、新たに1件（新御堂所蔵仏像3軀）を指定したが、資料館に寄託しているため、交付対象としていない。
- (2) 補助金交付事業を通して貴重な文化財の補修をすることができ、今後の文化財の保存と継承について寄与することができた。

4 27年度以降の取組

- (1) 平成27年度以降についても、現在指定されている文化財への交付金を継続して交付する。また、新たに文化財が指定されるごとに対応していく。
- (2) 平成27年度以降についても、所有者と協力しながら、必要に応じて対応していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	民俗芸能保存事業交付金交付事業		
予算額	600,000円	決算額	570,000円

1 事業概要

伝統的な民俗芸能の保存に努める伝承団体に対し、その保存伝承及び後継者育成に要する経費に充てるため、「桶川市民俗芸能保存事業交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。

2 事業実績

交付金額 30,000円×19団体＝570,000円

＜交付対象民俗芸能及び伝承団体＞

No	芸能の名称	団体の名称
1	岡村の囃子	岡村囃子連
2	岡村の万作	岡村万作保存会
3	加納の餅つき踊り	加納餅つき踊り保存会
4	上日出谷の囃子	上日出谷青年会
5	倉田の囃子	桶川市倉田祭囃子保存会
6	桶川市子どもばやし	桶川市本街子ども囃子保存会
7	小針領家ささら獅子舞	小針領家獅子舞保存会
8	下日出谷の囃子	下日出谷囃子連
9	下日出谷の餅つき踊り	下日出谷餅搗踊り保存会
10	下日出谷の万作	下日出谷万作踊り保存会
11	諏訪の万作	諏訪万作保存会
12	前領家のささら獅子舞	前領家ささら獅子舞保存会
13	松原のささら獅子舞	松原ささら獅子舞保存会
14	松原の真言	松原真言保存会
15	松原の万作	松原万作保存会
16	三田原のささら獅子舞	三田原ささら獅子舞保存会
17	三田原の万作	三田原万作連
18	夫婦獅子舞・囃子	武州桶川宿本街保存会
19	薬師堂の囃子	薬師堂囃子連

3 上記2に対する評価

(1) 無形文化財の保存について、意識啓発を図るとともに、各民俗芸能伝承団体の活動（後継者育成等）や今後の発展に寄与することができた。交付金については、申請のあった19団体について全て交付することができた。また、祭礼等を通じて民俗芸能団体（三田原のささら獅子舞、前領家のささら獅子

舞、松原のささら獅子舞、下日出谷の餅つき踊り、下日出谷の囃子、倉田の囃子、川田谷・下日出谷の万作、小針領家のささら獅子舞)の活動記録をとることができた。

4 27年度以降の取組

- (1) 平成27年度についても民俗芸能についての情報を収集していき、交付金の交付を含めた支援活動を行っていく。また、活動再開をした団体があれば随時対応をしていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	後谷遺跡出土品保存処理事業		
予算額	5,000,000円	決算額	4,978,800円

1 事業概要

国指定重要文化財の後谷遺跡出土品について、適切な保存管理・活用を行い、将来へ引き継いでいくことを目的に必要な保存修理を実施した。

2 事業実績

- (1) 保存修理は、漆製品、木製品、土製品等の出土品のうち、脆弱な資料や修復が必要な資料に対して行った。平成26年度に関しては、木器・木製品22点（弓）をその対象とした。
- (2) 良好な保存状態を確保するために、保存処理した22点を保存する専用の保存箱を作製した。

No.	長 (cm)	径 (cm)	遺存度		品質形状等
1	173.80	2.80	100	%	樹種不明（イヌガヤカ）、針葉樹、弓筈彫刻有り、長弓、PG処理
2	177.00	3.00	100	%	樹種不明（イヌガヤカ）、針葉樹、樹皮残存、本筈彫刻有り、末筈側加工途中、長弓、未成品、PG処理
3	(41.10)	2.80	50	%	樹種不明（イヌガヤカ）、末筈側残欠、弓筈彫刻有り、折損部炭化、塗布物有り（黒漆か）、PG処理
4	(52.00)	2.40	60	%	樹種不明（イヌガヤカ）、末筈側残欠、弓筈彫刻有り、弓幹に擦痕有り、PG処理
5	(73.00)	2.40	70	%	樹種不明（イヌガヤカ）、末筈側残欠、弓筈彫刻有り、PG処理
6	(75.50)	2.80	70	%	樹種不明（イヌガヤカ）、末筈側残欠、弓筈緻密な彫刻有り、弓筈に付着物有り（黒漆か）、PG処理
7	(56.00)	1.60	50	%	樹種不明（イヌガヤカ）、本筈側残欠、弓筈彫刻有り、PG処理
8	(67.40)	1.30	70	%	樹種不明（イヌガヤカ）、本筈側残欠、弓筈刻み有り、一部擦痕有り、PG処理
9	(65.80)	1.30	70	%	樹種不明（イヌガヤカ）、本筈側残欠、弓筈刻み有り、PG処理
10	(17.30)	2.10	20	%	樹種不明（イヌガヤカ）、末筈残欠、弓筈彫刻有り、PG処理
11	(48.20)	1.60	50	%	樹種不明（イヌガヤカ）、末筈残欠、未成品か、PG処理
12	(79.30)	1.50	80	%	イヌガヤ、本筈残欠、未成品か、PG処理
13	(56.10)	1.90	60	%	樹種不明（イヌガヤカ）、末筈残欠、弓筈刻み有り、PG処理
14	75.40	1.10	100	%	樹種不明（イヌガヤカ）、両弓筈共刻み有り、短弓、PG処理
15	(11.40)	1.10	10	%	樹種不明（イヌガヤカ）、末筈残欠、弓筈彫刻有り、PG処理
16	67.00	1.10	100	%	樹種不明（イヌガヤカ）、本筈刻み有り、末筈彫刻有り、短弓、

					2片未接合、PG処理
17	(73.50)	1.20	80	%	樹種不明(イヌガヤか)、末筈残欠、弓筈彫刻有り、PG処理
18	(70.10)	1.70	70	%	イヌガヤ、本筈残欠、弓筈刻み有り、未製品か、PG処理
19	(83.00)	1.40	80	%	樹種不明(イヌガヤか)、末筈残欠、弓筈刻み有り、 弓筈部分一部炭化、擦痕有り、PG処理
20	(65.00)	1.70	70	%	樹種不明(イヌガヤか)、末筈残欠、弓筈刻み有り、PG処理
21	(66.00)	2.00	70	%	イヌガヤ、本筈残欠、弓筈刻み有り、未成品、PG処理
22	(74.50)	2.20	70	%	イヌガヤ、残欠、末筈側に刻み有り、未成品、PG処理

※「長さ」の項目のところの()は、残存している長さを示している。

3 上記2に対する評価

- (1) 予定通り木器・木製品 22点について保存修理及び保存箱の作製を実施することができた。保存修理を行うことで劣化の進行や損傷を防ぎ、重要文化財の適切な保存管理と継承ができるようになった。
- (2) このことによって、良好な状態での公開や活用の機会を増やすことが可能となり、歴史民俗資料館の常設展示にて公開するほか、同じく修理した土偶1点については、文化庁主催の「発掘された日本列島 2014」展へ出品された(平成26年11月～12月 長野市立博物館)。

4 27年度以降の取組

- (1) 平成24年度から5ヵ年計画で保存修理を予定していたものを、再度、文化庁と見直しを図り、7ヵ年をかけて280点の出土品に保存修理を施すものとした。これまでの間、漆製品13点、土偶1点、木器・木製品39点の計53点が終了している。平成27年度については木器・木製品13点について保存修理及び保存箱の作製を実施する。
- (2) 保存修理の終わったものについては、歴史民俗資料館に収蔵し、特別展示等の一般公開の機会を創出する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財調査事業		
予算額	44,000円	決算額	28,900円
1 事業概要	<p>新たな指定の可否を行なうため、未指定文化財の調査を実施し、指定について審議した。</p>		
2 事業実績	<p>(1) 川田谷の「新御堂の木造十一面観音菩薩立像」について、エックス線撮影などさらなる調査を実施した。</p> <p>(2) 「新御堂の木造十一面観音菩薩立像」が、市指定文化財に指定できた。</p> <p>(3) 新たに発見された「地租改正地引絵図」について、資料の実見等未指定の文化財の調査を行った。</p>		
3 上記2に対する評価	<p>(1) 調査等を実施することにより、文化財に関する貴重な情報を得ることができた。</p> <p>(2) 文化財指定されることにより、貴重な文化財を保護し、未来に伝えていくことに大きく貢献することができた。</p> <p>(3) 他の「地租改正地引絵図」と併せて、今後、文化財指定の可能性も考慮し、調査することとなった。</p>		
4 27年度以降の取組	<p>(1) 市内所在または市で所有する未指定の各種文化財について、随時調査を実施していく。</p> <p>(2) 明星院の山門及び関連資料の調査のほか、歴史民俗資料館に保管されている資料など、既に調査を実施した文化財を含めて、その指定を検討する。</p> <p>(3) 旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場については、整備計画の進捗状況に合わせ、指定等を行っていく。</p>		

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	スポーツ指導者育成事業		
予算額	2,744,000円	決算額	2,590,860円
1 事業概要 スポーツ指導者の育成支援を行った。			
2 事業実績 （1）スポーツ推進委員やスポーツ少年団、体育協会に情報提供を行い、その活動を支援した。＜報酬：2,226,500円、費用弁償：364,360円＞ （2）スポーツ推進委員及び体育協会加盟団体、スポーツ少年団の指導者を対象に「普通救命講習」を実施した。（受講者：80人）			
3 上記2に対する評価 （1）各種研修会に多くのスポーツ指導者が積極的に参加した。特にスポーツ少年団は認定指導員養成講習会へ積極的に参加し、新たに9人が指導者となった。 （2）各団体において「普通救命講習」を実施し、AEDの取り扱いや応急手当について知識を深めたことにより、指導者の資質の向上が図れた。			
4 27年度以降の取組 （1）スポーツ指導者の育成や支援を継続していく。 （2）普通救命講習をスポーツ推進委員、体育協会加盟団体及びスポーツ少年団に継続的に実施する。 学校体育施設開放の利用団体の普通救命講習は、昨年度は体育協会と同時に実施した。今後は、小中学校を活動の場としている学校体育施設登録団体の多くの方が受講できるように独自に実施する。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	活動団体支援の充実（2044）		
事業名	スポーツ団体への支援事業		
予算額	4,935,000円	決算額	4,934,945円

1 事業概要

生涯スポーツの普及及び更なる推進を図るため、各種団体に対し支援を行った。

2 事業実績

(1) スポーツ団体等の支援・育成のため、以下のとおり補助金を交付した。

件 名	金 額
桶川市体育協会補助金	1,600,000円
桶川市スポーツ少年団補助金	560,000円
桶川市レクリエーション協会補助金	240,000円
桶川市スポーツ推進委員連絡協議会補助金	240,000円

(2) スポーツの振興を図るためのイベントを実行委員会形式で実施した。

件 名	金 額
地区別体育祭運営交付金	2,294,945円
スポーツフェスティバル交付金	500,000円
おけがわ駅伝競走大会交付金	300,000円

(3) スポーツ・レクリエーション団体会員数の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
会員数	9,878人	9,668人	10,041人

3 上記2に対する評価

各スポーツ・レクリエーション関係団体に補助金を交付することなどにより、活動を支援し、生涯スポーツの普及・促進に寄与するとともに、会員数を増やすことができた。

- (1) 桶川市体育協会、桶川市スポーツ少年団及び桶川市レクリエーション協会などの団体の協力により、子供から大人までの幅広い世代の生涯スポーツの普及・推進を図ることができた。また、スポーツ推進委員は自事業のほかにも様々な行事、事業で活動を行い、桶川市のスポーツ・レクリエーションの振興に貢献した。
- (2) 7年目を迎えた地区別体育祭は、各地区に対して助成した結果、各地区実行委員会が中心となって地域の特色を生かした体育祭が開催された。
- (3) 各種イベントを実施することにより、スポーツ・レクリエーションの普及、推進に資するとともに、スポーツ少年団などの関係団体の活動を支援した。

4 27年度以降の取組

- (1) 各種活動団体に対する支援並びにイベントを通じて、生涯スポーツの普及・推進を図り、スポーツ・レクリエーション団体会員数の増加及び活動の充実を目指す。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる											
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）											
基本事業	施設の充実（2045）											
事業名	スポーツ施設維持管理事業											
予算額	574,922,000円	決算額	486,756,337円									
1 事業概要												
スポーツ関連施設の適切な維持管理を行い、生涯スポーツの普及、推進を図った。												
2 事業実績												
<p>(1) 体育施設の管理<サ・アリーナ改修：420,928,272円、施設管理委託62,485,000円ほか> ア 昨年度は平成3年に竣工し、20年以上が経過したサ・アリーナの大規模改修を行い、外壁の改修及び既存設備の更新等を実施したほか、メインアリーナなどに空調設備を新設した。</p> <p>イ サ・アリーナ、舎人スポーツ・パーク、新小針領家グラウンド、総合運動場の体育施設について、その管理、受付業務、利用料金収納業務等を指定管理者である（公財）桶川市施設管理公社に委託した。また、体育施設の維持改善に努めた。</p> <p>(2) 学校体育施設開放事業<AED借上料：264,600円、夜間照明維持管理467,337円ほか> すべての小・中学校において、学校体育施設開放事業として、施設が開放されており市民のスポーツ活動の拠点として利用されている。 例年に引き続き、施設の維持管理に努めており、施設の利用状況も次のとおりであった。</p> <p><登録状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>団体数</th> <th>利用人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小中学校施設利用団体</td> <td>156団体</td> <td>3,028人</td> </tr> <tr> <td>夜間照明施設利用団体</td> <td>11団体</td> <td>466人</td> </tr> </tbody> </table>				区分	団体数	利用人数	小中学校施設利用団体	156団体	3,028人	夜間照明施設利用団体	11団体	466人
区分	団体数	利用人数										
小中学校施設利用団体	156団体	3,028人										
夜間照明施設利用団体	11団体	466人										
3 上記2に対する評価												
(1) サ・アリーナの大規模改修を実施し、利用環境の改善を図ることができたほか、既存の施設については、備品の更新や必要に応じた補修及び点検等を行うことにより、適切な維持管理をすることができた。												
4 27年度以降の取組												
(1) 既存の施設について、備品の更新、施設の補修、点検等を行う。												
(2) 総合グラウンドについては、庁内を横断する体制を組織し、調査や検討課題の整理を行う。												

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	少子・高齢化対応事業		
予算額	398,000円	決算額	341,070円

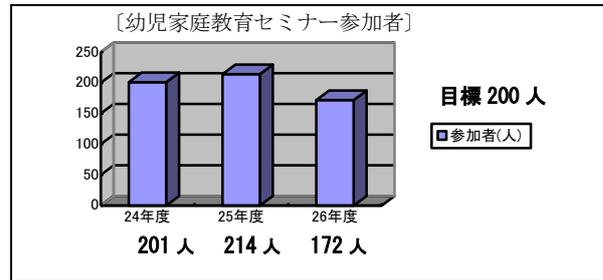
1 事業概要

少子高齢化社会に対応するため、人間形成の基礎を築く幼児期の重要性を理解し健やかな子育てとともに健全な家庭を築くことのできる親の育成の一助とすることを目的とした幼児家庭教育セミナー、高齢者が健康で充実した生活を送れるように、地域社会への貢献や地域の親睦などを目的としたふれあい学級を実施する。

2 事業実績

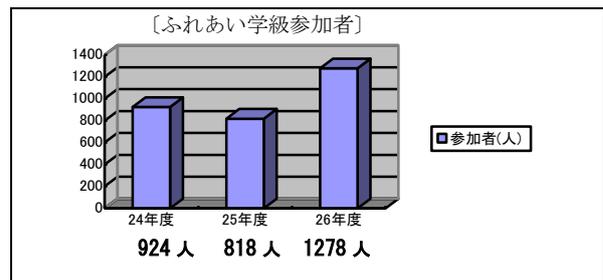
(1) 幼児・家庭教育セミナー(174千円)

桶川東公民館において、前後期各4回(計8回)の日程で、保育・レク・片付け・料理などの生活術・現代課題など育児に必要な情報をテーマとし、講座、体験、グループトークなど多様な学習形態により実施した。



(2) ふれあい学級 (168千円)

9回の講座メニューを4公民館同一内容において実施した。健康知識、体操、映画・演芸鑑賞、趣味要素などをちりばめ、楽しみながら学べるようメニューを工夫しながら実施した。



3 上記2に対する評価

(1) 幼児・家庭教育セミナー 特定の講座に集中して参加する傾向が高く累計として当初目標を下回る結果となってしまったが、「仲間づくりができてよかった」「ワークショップ・体験型などの学習も楽しめた」など評価する声が多かった。

(2) ふれあい学級 東公民館のリニューアルに加え、ポイント事業の効果が加わり、前年比で50%以上の高い伸びを達成することができた。参加者の声も「バラエティに富む内容」「通年実施してほしい」などの好意的な評価が高かった。

4 27年度以降の取組

(1) 幼児・家庭教育セミナー

- ①現在の子育て世代のニーズに応えられる、魅力ある講座を実施する。
- ②講座内容、実施時期等に、参加者からのアンケート結果を反映させる。

(2) ふれあい学級

- ①高齢者の関心が高い「健康」や実生活に即した内容をテーマとした講座実施に努め、継続して参加もらえるよう変化を持たせた内容を検討していく。
- ②講座内容、実施時期等に、参加者からのアンケート結果を反映させていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	公民館業務運営事業		
予算額	13,519,000円	決算額	12,147,319円

1 事業概要

市民に学習の場を提供するために、必要な公民館施設の管理運営を行った。

2 事業実績

(1) 公民館運営審議会を開催

有識者や利用者などの意見聴取の場となる公民館運営審議会を定期的(年3回)に開催し、地域に根差した風俗など意見を反映した講座を実施した。(281千円)

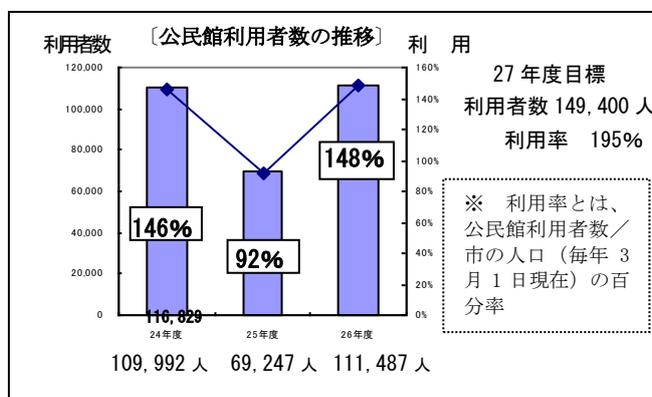
(2) 貸館業務管理人の配置と予約申請窓口の拡大

非常勤館長の配置のほか、夜間土日を含め、公民館施設の貸館事務に要する臨時職員、委託による管理人を配置した。(9,463千円)

また、インターネット予約システムを12月に導入したほか、次年度から職員の勤務体制を変更することにより、土日祝日の受付業務拡大の準備調整、周知活動を行った。

(3) 公民館利用状況

年度別利用者数と利用率は、右表のとおり。



3 上記2に対する評価

(1) 公民館運営審議会委員の開催

有識者等の多様な声を聞くことで、講座企画の指針となった。

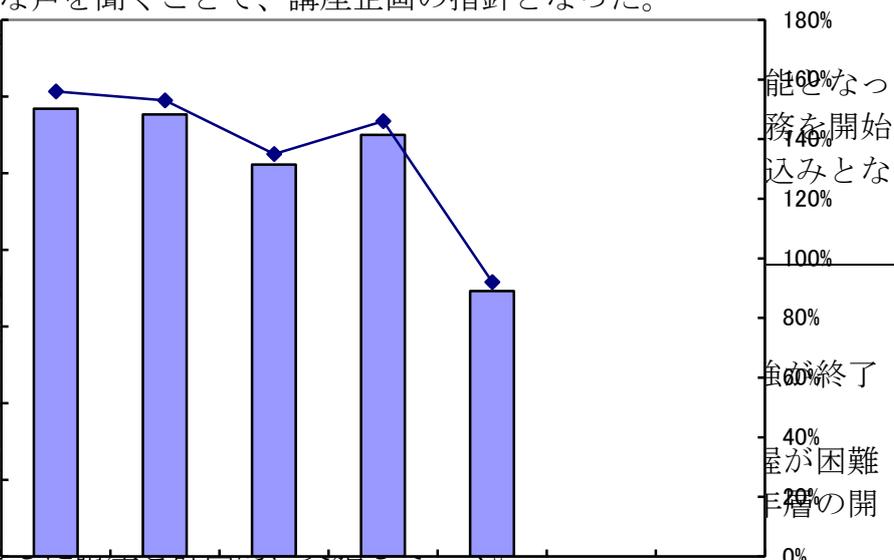
(2) 予約申請窓口の予約システムにした。平成27年度することになった。

4 27年度以降の取組

(1) 公民館の施設整備

- ① 開館して28年をすぎた加納公民館
- ② 施設改修による新たな状況にある中、拓などを目標と

- ③ 土日窓口の拡大に伴い、27年度より24年度と25年度で各館の人員体制が悪化しているため、施設体制の在り方を含め他課等と調整を図っていく。



施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	講座開催事業		
予算額	1,483,000円	決算額	1,437,518円

1 事業概要

市民の多様な学習ニーズを捉えて公民館講座を開催した。

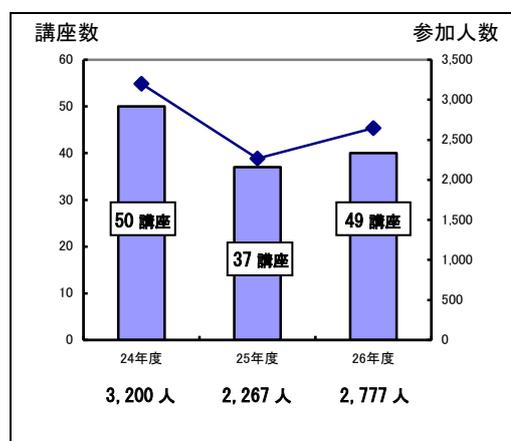
2 事業実績

公民館運営審議会の意見や受講者のアンケート調査等をもとにして、4公民館では主催事業として49事業、延べ2,777人の参加者による講座を実施した。（1,438千円）

<平成26年度の各公民館講座実施状況>

公民館	講座実施状況	参加者数
桶川	プロが教える料理講座 他10	237
桶川東	フットサル講座 他8	437
加納	アロマセラピー講座 他17	403
川田谷	レクチャーコンサート 他8	250
共通	幼児・家庭教育セミナー ふれあい学級	1,450

<講座実施状況の推移>



3 上記2に対する評価

(1) 時代に即したテーマを取り入れながら多様な学習の機会を提供する講座実施を図ることを目標に、市民ニーズを的確に捉えた魅力ある講座を企画した。また、現役世代の参加を促すため講座を土日にも実施するとともに講座数も9講座増加させた。

また、ボランティア団体と協働による「いきがづくり支援」講座を実施し、のべ29人の参加者を集め、「自分のためにも活動に取り組みたい」などの意見を頂いた。

4 27年度以降の取組

(1) 講座の実施

- ① 市民ニーズを的確に捉え、引き続き時代に即したテーマを取り入れた魅力ある講座を企画していく。平日の昼間に限定することなく夜間や土日に設定する等、現役世代の参加を促す工夫を検討し、サークル化など継続的学習など、幅広い世代の市民から利用していただけるような公民館づくりを目指す。
- ② 体験的講座を引き続き実施するとともに、50講座を目標に講座を実施する。

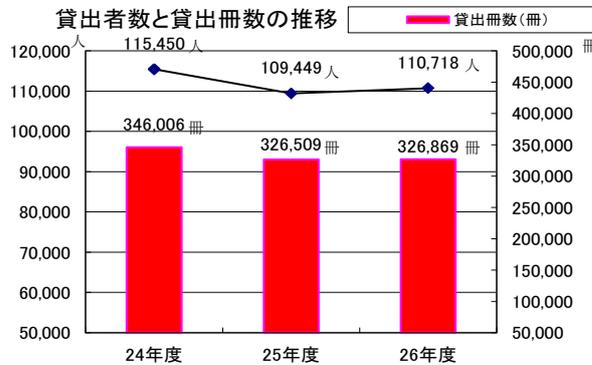
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	管理運営事業		
予算額	86,605,000円	決算額	86,405,046円

1 事業概要

図書館サービスの充実を図るため、図書館の維持管理業務を行った。

2 事業実績

- (1) 駅西口図書館リニューアル計画の検討
- (2) 図書館サービス業務委託（駅西口図書館・川田谷分室業務委託）37,026,720円
- (3) 駅西口図書館借上料 19,958,400円、共益費 7,100,235円
- (4) 施設調査改修設計委託（市立図書館） 8,727,480円
- (5) 貸出者数の推移



3 上記2に対する評価

- (1) 駅西口図書館リニューアル計画を検討し、駅西口図書館に中央図書館機能を導入することで第5次総合振興計画に掲げた中央図書館構想が実現できた。
- (2)・(3) 駅西口図書館と川田谷分室について図書館サービス業務委託を行い、利用者に対し満足度の高いサービスが提供できた。
- (4) 市立図書館の老朽化対策として大規模改修工事を行うため、施設の改修設計を行い、会議室・授乳室など新しい機能を盛り込むことができた。
- (5) 貸出者数及び貸出冊数が微増したが、加納公民館での資料の貸出が平成27年1月から開始したことに伴い、利便性が向上したことが要因の一つと考えられる。

4 27年度以降の取組

- (1) 駅西口図書館のサービス内容を充実させ、運営形態についても指定管理者制度を導入し、利用者の利便性を向上させる。また、利用者アンケートなどを実施し利用者ニーズを的確に把握しサービスに反映させる。更に、隣接して新たに設けられる共同スペースを介し文化交流事業を展開し新たな市民サービスを提供する。
- (2) 市立図書館の改修計画を進め、高齢者・乳幼児の親子などに利用しやすい図書館をめざし改修する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	図書館業務推進事業		
予算額	29,527,000円	決算額	29,321,050円
1 事業概要			
図書館資料を購入し、幅広い年齢層を対象に事業を実施した。			
2 事業実績			
(1) 図書館資料の購入			
	摘要	購入冊数	(前年比較)
	図書館資料	6,968冊	減120冊
			購入金額
			11,314,306円
			(前年比較)
			増91,148円
	その他資料（地図・法令集・官報等）購入金額		252,996円
(2) 電算機器等借上料及び保守委託 9,524,988円			
(3) 有料データベースサービス料（官報・法情報・日経テレコン21）395,016円			
(4) ボランティア養成講座：参加者 23人			
成人対象講座：参加者 35人			
(5) おはなし会：実施回数 146回 参加者 児童749人 大人280人			
対面朗読：実施回数 17回 参加者 17人			
(6) ボランティアとの協働事業「子供への読み聞かせの指導・読み聞かせの実践」			
参加児童 読み手 10人 聞き手 20人 ボランティア 12人			
3 上記2に対する評価			
(1) 市民の文化交流の場として図書館に親しんでいただくため資料の収集・提供機能を拡充し図書館利用を促進した。また、除籍した資料13,039冊のうち8,136冊をリサイクル本として利用者に提供した。			
(2) 図書館情報システムの活用により、資料の検索・リクエストなどが容易になり、利用者の利便性が向上している。			
(3) ビジネス支援として官報・法情報・日経テレコム21の有料データベースサービスを提供し、利用者の利便性を高めた。			
(4) 読書会活動を推進するボランティア育成講座を開催し、新規ボランティアの育成を図った。また、成人対象事業として「相続」についての講座を実施し、同時に関連図書目録の作成を行い貸出利用につなげた。			
(5)・(6) ボランティア団体の協力や支援により、子供への読み聞かせや視覚に障害のある方への対面朗読の事業が実施できた。			
4 27年度以降の取組			
(1) 拡充後の駅西口図書館において、ボランティア団体の協力や支援を得て3世代が交流できる読み聞かせや、子育て世代の読書活動をサポートする新たな事業を展開する。			
(2) 学校と連携し小学1年生を対象に「セカンドブック事業」を実施し、本に親しむきっかけ作りを支援する。また、読書の履歴として利用できる「読書通帳」を発行し、1年生だけでなく幅広い年齢層の利用について周知を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承 (206) 生涯学習・生涯スポーツの充実 (204)		
基本事業	文化財の保存と継承 (2064)		
事業名	資料調査・収蔵事業		
予算額	2,337,000 円	決算額	2,306,502 円
1 事業概要			
桶川の歴史と文化を健全な形で後世に伝えるため、関連資料について調査収集を行い、これを収蔵した。			
2 事業実績			
(1) 資料収集事業			
以下の資料について、新規に収集を行った。			
有形民俗資料：五丁台地区の生活用具 川田谷八幡原の花火資料 荒川の漁具			
文書資料：旧桶川町地租改正地引絵図及び学校関係資料			
美術品：内田静馬氏の版画及び版画サークル関係資料			
〔賃金 1,707,657 円〕			
(2) 資料調査事業			
歴史資料の調査：栗原家文書の整理解読 (継続事業) 〔賃金 598,845 円〕			
無形民俗文化財の調査：小針領家のささら獅子舞 薬師堂のお斎念仏			
(3) 資料収蔵事業			
ア 後谷遺跡第4次調査出土品の生涯学習文化財課からの移管収蔵 (900 箱)			
イ 市指定文化財「新御堂の木造十一面観音菩薩立像及び脇侍像」の収蔵 (寄託品)			
(4) 資料管理業務			
ア 燻蒸室、スタジオなどの収蔵部門各室の整理整頓を行い、その機能を回復した。			
イ 収蔵庫内の資料の再配置を行い、有形民俗資料及び寄託資料の精選作業を行った。			
ウ 燻蒸殺虫業務を委託実施した。 〔委託料 366,228 円〕			
エ 民俗文化財記録映像であるアナログビデオ映像資料の一部をデジタル化した。			
オ 他市所蔵の桶川市関係資料のマイクロフィルムをデジタル複製した。			
〔印刷製本費 38,880 円〕			
3 上記2に対する評価			
本事業は、歴史民俗資料館のもっとも基礎的な業務として実施した。			
(1) は、滅失の恐れがあるため、緊急に新規収蔵を実施した。			
(2) は、継続的に実施している事業であり、新たに2件デジタル映像として保存した。			
(3) は、生涯学習文化財課と連携して、文化財の保存業務として実施したものである。			
(4) は、平成26年度の重点事業として実施し、収蔵部門の機能を回復したことにより、円滑な業務運営が可能となった。			
4 27年度以降の取組			
(1) 地域資料について調査資料の収蔵と登録を計画的に実施する。			
(2) 資料の収蔵環境を整え、I P M (※) の手法による資料の健全な保存を目指す。			
(3) デジタル技術を応用した資料の保存に取り組み、目録管理を行う電算システムと統合的に運用する。			
※ I P M (Integrated Pest Management 総合的有害生物管理) とは、施設管理と病虫害の防除を統合的に実施し、環境にやさしい資料管理を実現すること。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承 (206) 生涯学習・生涯スポーツの充実 (204)		
基本事業	多様な学習機会の提供 (2041)		
事業名	教育普及事業		
予算額	577,000 円	決算額	442,781 円
1 事業概要	桶川の歴史と文化への理解を深めるため、地域文化の展示及び講座をとおして市民に広く伝えた。		
2 事業実績	<p>(1) 展示事業</p> <p>ア 小企画展</p> <p>テーマ：「川田谷学校にみる近代の教育」 開催期間：12月6日～1月25日 テーマ：「新御堂の木造十一面観音菩薩立像と川田谷の観音信仰」 〔収蔵資料梱包運送業務 通信運搬費 253,800 円〕 開催期間：2月27日～3月22日 テーマ：「昭和の戦争と桶川」 開催期間：8月2日～8月31日</p> <p>イ 資料展示</p> <p>「地租改正と地引絵図」6月期 「祇園祭と山車」7月期 「下日出谷の神楽・芝居用具」8月期 「陸軍飛行学校桶川分教場」10月期 「講と信仰」10・11月期 〔消耗品費 89,821 円 印刷製本費 29,160 円〕</p> <p>(2) 講座事業</p> <p>ア 特別文化財講座</p> <p>テーマ：「渋沢栄一の実像について ―近代化の行方について考える―」 開催日：11月23日 参加者：30人 講師：県内研究者</p> <p>イ 企画展関連文化財講座</p> <p>テーマ：「新御堂の木造十一面観音立像をめぐって」 開催日：2月14日 参加者：34人 講師：桶川市文化財保護審議委員</p> <p>ウ 展示解説講座</p> <p>第1回「台地とともに」9月27日 第2回「拓かれる台地①」10月5日 第3回「拓かれる台地②」10月18日 第4回「街道と台地の暮らし」11月1日 〔講師謝金 60,000 円〕</p> <p>(3) 体験学習事業</p> <p>ア 紅花関連事業（べに花まつり関連事業） 実施日：6月21日 22日 実施回数：4回 参加者数：100人</p> <p>イ お囃子体験講座（夏休み児童対象事業） 実施日：8月5日 7日 9日 参加者5人（他に保護者の参加3人）</p> <p>(4) 連携交流事業</p> <p>ア 桶川市（自治文化課）事業への支援 事業名：シンポジウム「陸軍桶川飛行学校からのメッセージ」実施日：10月4日 支援内容：会場提供 資料展示 ポスター等掲示物制作</p>		

イ 産業観光課（観光協会）事業への支援

事業名：「駅からハイク」 実施日：10月12日

支援内容：会場提供 資料展示 展示解説

ウ いずみの家（障害者支援施設）支援事業

事業名：小麦饅頭づくり体験 実施日：11月18日 参加者 60人

支援内容：会場提供（生涯学習センター） 講師紹介（公民館サークル）

エ 桶川三曲協会支援事業

事業名：三曲会公開研修会（邦楽） 実施日：12月7日

支援内容：会場提供 公開活動支援

オ 特別支援学級活動支援

事業名：「餅つき体験」 実施日：12月20日

参加校：桶川西小学校 日出谷小学校 川田谷小学校 朝日小学校

支援内容：会場提供（体験学習室） 用具提供

カ 学校社会科授業支援

事業名：小学校3年生社会科「むかしの暮らしを調べる」に関わる見学

支援内容：体験学習 資料見学 視聴覚教材作成 ボランティアの協力

参加校：市内小学校7校 市外小学校1校

(5) 展示参観者数

展示参観者数の推移は、下表のとおりである。

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
入館者数（人）	12,417	11,256	8,706
開館日数（日）	279	287	294

3 上記2に対する評価

- (1) は、収蔵資料をもとに、桶川の歴史と文化を公開した。とくに「新御堂の木造十一面観音立像」の展示は、生涯学習文化財課と連携して市指定文化財の公開を行う試みとなった。
- (2) の講座の実施にあたっては、展示との関連性を重視し、講座への理解を深めることができた。
- (3) については、体験学習室設置の目的であった民俗文化の伝承活動を再開したものである。
- (4) は、平成26年度において重視した活動である。体験学習室を活動の場としながら、市民相互の交流を促進するという事業の趣旨を実現することができた。以上のとおり、学習の場の拡大には成果をあげることができたが、常設展示の参観者は減少傾向にある。このことは、開館時に比べ、常設展示資料の数が減じており、展示施設の老朽化も原因と考えられる。よって、展示と並行して、常設展示の再生に向けて、展示施設の修繕や展示資料の整備を進めた。

4 27年度以降の取組

- (1) 資料の公開・普及にあたっては、地域の課題を積極的に取り上げる。
- (2) 市民団体や青少年団体との連携による事業の展開を図る。
- (3) 「道の駅」関連施策については、庁内調整会議等に参加し、調整を継続する。
- (4) 常設展示の改修基本計画を策定する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実 (204)		
基本事業	施設の充実 (2045)		
事業名	生涯学習センター管理事業		
予算額	26,602,000 円	決算額	26,365,052 円
1 事業概要			
生涯学習実践の拠点施設として、生涯学習センターを構成する歴史民俗資料館及び川田谷公民館、図書館川田谷分室が健全に機能を発揮し、市民の学習の場を提供できるよう、施設の維持管理を行った。			
2 事業実績			
(1) 生涯学習センター共通			
利用者の安全及び施設利用環境の改善に関わる事業として、以下の事業を実施した。			
ア	総合管理委託	委託金額	14,147,784 円
イ	建築物及び建築設備定期調査報告等業務委託	委託金額	1,102,485 円
ウ	中央制御盤部品交換修繕		405,000 円
エ	排煙窓改修理		151,521 円
オ	喫茶室、男子トイレ、清掃員控室ブラインド一式交換		153,705 円
カ	女子トイレのベビーシート交換		234,900 円
(2) 歴史民俗資料館			
常設展示環境の改善を主に以下の事業を実施した。			
ア	展示台等購入		227,880 円
イ	展示台修繕		98,928 円
ウ	体験学習室外周土間タイル改修		187,920 円
(3) 川田谷公民館			
ア	スポーツホール昇降ブラインド修理及び屋根水切鉄板修理		1,102,485 円
イ	ワイヤレスマイク修理 (視聴覚ホール)		15,552 円
ウ	DVDプレイヤー購入 (視聴覚ホール・研修室)		22,680 円
(4) 図書館分室			
	図書館カーテン一式交換		140,400 円
3 上記2に対する評価			
(1) によって、安全管理にかかわる施設の整備を行うことができた。とくに、外壁打診調査によって、当面の安全確保に加えて、改修計画における指針を得た。			
(2) によって、常設展示の整備の準備を行うことができた。また、体験学習室の環境を改善することによって活動が活性化することにつながった。			
(3) 及び (4) については、それぞれの施設について利用環境が改善した。			
4 27年度以降の取組			
(1) 川田谷生涯学習センターを構成する各施設の機能を維持するために、設備と備品の整備を進める。			
(2) 施設の点検を実施し、現状の課題を取りまとめる。			
(3) 「道の駅」の設立計画を想定しながら、生涯学習センターの施設改修の計画を立案する。			